

Dell ライフサイクルコント
ローラ USC / USC-LCE
バージョン 1.6.5

ユーザーズガイド



メモおよび注意



メモ：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。



注意：手順に従わない場合は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。
© 2014 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell™、DELL ロゴ、OpenManage™、PowerEdge™、および PowerVault™ は、Dell Inc. の商標です。Intel® は米国およびその他の国における Intel Corporation の登録商標です。Boradcom® は、米国および/またはその他の国における Broadcom Corporation の商標または登録商標です。Microsoft®、Windows®、および Windows Server® は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。VMware® および ESX™ は、米国および/またはその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。Novell® および SUSE® は米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標です。Red Hat® は米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。Citrix™ は Citrix Systems, Inc. および/またはその関連会社（1社または複数社）の商標であり、米国特許商標局および他の国で登録されている場合があります。Linux® の用語は、Linux カーネルの最初の作成者である Linus Torvalds の登録商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すためにその他の商標および社名が使用されていることがあります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

目次

1	はじめに	11
	なぜ USC/USC - LCE を使うのですか。	12
	USC および USC-LCE の機能と製品の分類	13
	USC / USC - LCE 1.5 の新機能	17
	USC または USC-LCE へのアップグレード	17
	その他の必要マニュアル	18
2	USC または USC-LCE の使い方	19
	USC または USC-LCE の起動	19
	起動時メッセージ — 原因および解決法	19
	USC または USC-LCE を有効にする	21
	USC または USC-LCE を無効にする	21
	システムサービス起動要求のキャンセル	21
	USC を初めて使用する場合	22
	USC-LCE を初めて使用する場合	22
	USC 設定ウィザードの使用	22
3	USC および USC - LCE の機能	25
	ライフサイクルログ	26
	USC - LCE プラットフォームアップデート	27

FTP 認証	27
プラットフォームのロールバック	28
ハードウェア構成	28
設定ウィザード	28
HII 詳細設定	29
ハードウェアインベントリ – 表示と エクスポート	29
設定の削除とデフォルトのリセット	31
オペレーティングシステムの展開	31
ドライバへのアクセス	31
ドライバの解凍	32
ドライバのインストール方法	32
RAID 設定	33
プラットフォームの復元	34
部品交換設定	34
サーバープロファイルのバックアップ	34
サーバープロファイルのエクスポート	35
サーバープロファイルのインポート	35
ハードウェアの診断	36
USC または USC - LCE の修復	37
RAID 構成	37
キーの暗号化	37
ローカルキーの暗号化モード	38

4 USC および USC-LCE の操作	39
ハードウェアインベントリの表示 – 現在または工場出荷時	39
ハードウェアインベントリのエクスポート – 現在または工場出荷時	39
必要条件	39
ワークフロー	40
Lifecycle Controller リセット後のハードウェアインベントリの表示およびエクスポート	41
プラットフォームのアップデート	42
バージョンの互換性	42
現在のバージョン情報の表示	42
プラットフォームアップデートウィザードの起動	42
ダウンロード方法の選択	43
アップデートの選択および適用	46
BIOS およびファームウェアの以前のバージョンへのロールバック	47
ハードウェア診断ユーティリティのアップデート	50
ハードウェア診断の実行	50
オペレーティングシステムのインストール	51
必要条件	51
ワークフロー	51
オペレーティングシステムのドライバのソースロケーションの選択 (USC のみ)	52
オンラインリポジトリ	52
ローカルドライブ	53

オプションの RAID 設定の使用	54
オペレーティングシステム展開ウィザードを 使用した RAID の設定	54
RAID の設定のバイパス	54
オペレーティングシステムの選択	55
リストにある使用可能な オペレーティングシステムを選択する	55
オペレーティングシステムを カスタムで選択	55
リストにない使用可能な オペレーティングシステムを選択する	56
ドライバの解凍およびインストール	56
RHEL 4.8 オペレーティングシステム 用のドライバのインストール	57
システムの再起動	58
再起動後のシナリオ	58
オペレーティングシステムインストール後の シナリオ	59
Windows 起動可能システムパーティションの C ドライブへの割り当て	59
SAS7 (H200) コントローラを使用した Red Hat Enterprise Linux 4.8 のシステムへの インストール	60
システムコントロールパネルへの アクセスの制御	60
システムコントロールパネルへの アクセスオプション	61
システム日時設定	61
iDRAC の設定	61
LAN の設定	62
詳細 LAN 設定	64
共通の IP 設定	66

IPv4 設定	67
IPv6 設定	68
仮想メディアの設定	70
LAN ユーザー設定	71
サマリおよび確定	73
ハードウェア RAID を使用した RAID の設定	74
重要	74
ワークフロー	74
現在の設定の表示	75
RAID コントローラの選択	75
外部設定が検出されました	75
簡易設定ウィザードまたは詳細設定 ウィザード	76
基本設定の選択	77
簡易設定ウィザードのみ - ホットスペアの 割り当て	78
簡易設定ウィザードのみ - 概要の確認	79
詳細設定ウィザードのみ - 物理ディスクの 選択	79
詳細ウィザードのみ - 追加設定	80
詳細設定ウィザードのみ - 概要の確認	82
ソフトウェア RAID を使用した RAID の設定	82
必要条件	82
ワークフロー	83
シリーズ7 コントローラでのセキュアな仮想 ディスクの作成	83
vFlash SD カードの設定	84
HII 詳細設定	86
セキュアでない仮想ディスクの暗号化	88
必要条件	88

ワークフロー	88
RAID コントローラでのローカルキーの適用	88
必要条件	88
ワークフロー	88
コントローラを新しいキーで Rekey する	89
暗号化を削除してデータを消去する	90
iDRAC6 Express カードへのアップグレード	90
iDRAC6 Express カードの取り付け	90
iDRAC6 Express カードの移動	91
iDRAC6 Express カードの取り外し	92
ローカル FTP サーバーの設定	92
ローカル FTP サーバーの要件	92
Dell サーバーアップデート DVD から ローカルの FTP サーバーへの リポジトリのコピー	92
Dell Repository Manager を使用した リポジトリの作成とローカル FTP サーバーへのコピー	93
ローカル FTP サーバーにあるアップデートへの アクセス	93
ローカル USB デバイスの設定	94
Dell サーバーアップデート DVD から ローカルの USB デバイスへのリポジトリの コピー	94
Dell Repository Manager を使用した リポジトリの作成と USB デバイスへの コピー	95
部品交換設定	95
必要条件	95
サポートされているデバイス	96
再起動時のシステムインベントリの収集	96

部品ファームウェアアップデート	96
部品設定のアップデート	96
サーバープロファイルのバックアップ	97
必要条件	97
ワークフロー	97
サーバープロファイルの USB デバイスまたは ネットワーク共有へのエクスポート	98
必要条件	98
ワークフロー	98
vFlash SD カード、ネットワーク共有、 USB デバイスからのサーバープロファイルの インポート	100
必要条件	100
ワークフロー	100
インポート後のシナリオ	102
マザーボード交換後のサーバープロファイルの インポート	102
必要条件	102
ワークフロー	102
完了後の必要条件	103
ライフサイクルログ履歴の表示	103
ライフサイクルログのエクスポート	104
必要条件	104
ワークフロー	104
ワークノートのライフサイクルログへの追加	106
設定の削除とデフォルトのリセット	106

5	トラブルシューティングとよくあるお問い合わせ (FAQ)	107
	エラーメッセージ	107
	USC および USC-LCE の修復	120
	USC の修復	120
	USC-LCE の修復	120
	よくあるお問い合わせ (FAQ)	122
A	Lifecycle ログスキーマ	127
B	使いやすいシステム コンポーネント名	129
	索引	133

はじめに

Dell ライフサイクルコントローラは、高度な内蔵システム管理を実現するもので、Dell の第 11 世代サーバーに装備された iDRAC Express Card および内蔵 Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) アプリケーションの一部として提供されます。iDRAC6 は UEFI ファームウェアと連携して、ハードウェアのあらゆる側面にアクセスし、管理します。これには従来の BMC (ベースボード管理コントローラ) の機能を超えるコンポーネント管理とサブシステム管理も含まれます。



メモ：UEFI 環境は、ローカルコンソールインタフェースおよび、ローカル管理対象のシステムコンポーネント向けインフラストラクチャを提供します。

Lifecycle Controller は、次のコンポーネントで構成されます。

- **Unified Server Configurator (USC) および Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled (USC-LCE) :**
 - 内蔵設定ユーティリティで、内蔵フラッシュメモリーカード内にあります。
 - ブートシーケンス中に開始される BIOS ユーティリティに似ており、プレオペレーティングシステム環境で動作可能です。
 - システムのライフサイクルを通して、組み込み環境からのシステムおよびストレージの管理タスクを可能にします。

USC および USC-LCE は、1 対 1 方式でエンドツーエンドのサーバーライフサイクル管理を簡素化します。

- プロビジョニング — 統一インターフェースからプリオペレーティングシステム設定を全て設定します。
- 導入 — ライフサイクルコントローラに内蔵のドライブでの簡素化されたオペレーティングシステムのインストールです。
- 次のいずれかのソースから、オペレーティングシステムのインストール用ドライバをダウンロードします。
 - **ftp.dell.com** の Dell FTP ウェブサイト
 - USB 大容量ストレージデバイス
 - 『Dell Lifecycle Controller OS Driver Packs』 DVD

- 『Dell Server Updates』 DVD
 - 『Dell Systems Build and Update Utility』 DVD (USC のみ)
 - ネットワーク共有
- 修正 / アップデート (USC-LCE のみ) — オペレーティングシステムに依存せず、**ftp.dell.com** のアップデートに直接アクセスし、メンテナンスのためのダウンタイムを最小化します。ロールバックのために現行バージョンを維持することで、BIOS とファームウェアのアップデートを簡素化します。
 - サービス (USC-LCE のみ) — ハードディスクドライブに依存せず、診断を継続的に利用できます。Dell PowerEdge RAID コントローラ、NIC、電源装置等の、フィールド交換可能なコンポーネントの交換時に、ファームウェアを自動フラッシュする機能です。
 - セキュリティ (USC-LCE のみ) — ローカルのキー暗号化をサポートします。
 - プラットフォームの復元 — サーバードプロファイル (RAID 設定を含む) をバックアップし、サーバーを以前の既知の状態に復元します。
- リモートサービスは、1 対 多 方式でエンドツーエンドのサーバーライフサイクル管理を簡素化します。詳細については、『Dell Lifecycle Controller Remote Services ユーザーズガイド』を参照してください。

なぜ USC/USC - LCE を使うのですか。

システム管理は、通常システム管理者の主要な役割です。オペレーティングシステムのインストール、機能やポリシー要件のためのファームウェアのアップデート、デバイスの設定、および IT ネットワークを最大限に活用できることは、この役割に欠かせない要件です。USC および USC-LCE のリリース以前は、システム管理者は複数の CD/DVD に収録された DSA、SBUU、DTK 等の多数のツールを使用する必要がありました。多数のバージョンで提供される複数のディスクを維持し、使用することは、システム管理者にとって手間のかかる作業でした。

このような問題に対応するため、Dell は現在、Dell Unified Server Configurator (USC) アプリケーションと共にシステム内蔵のフラッシュチップである Lifecycle Controller を提供しています。Lifecycle Controller により、IT システム管理者はメディアを使用する必要がなくなり、ローカルに埋め込まれたドライバリポジトリ、ファームウェアアップデート、ハードウェア設定、およびプラットフォーム固有の診断ルーチンでオペレーティングシステムの展開を行うことが可能になりました。USC はオペレーティングシステムが動作していない間、またはインストールされていない場合でさえも利用可能なため、システムのプロビジョニングやユーザーの要件に応じたカスタマイズに対するより良い柔軟性を提供します。ツールは統合され埋め込まれているため、オペレーティングシステムをフォーマットまたは再インストールしてもツールが削除されることがなく、時間とコストを大幅に節約します。

USC および USC-LCE の機能と製品の分類

表 1-1 USC および USC - LCE の機能

機能	USC	USC-LCE
BMC を使用し、次の機能を提供する基本機能を備えた製品です。 <ul style="list-style-type: none"> • オペレーティングシステムの展開 • ハードウェアの診断 • USC の設定 	はい	はい
iDRAC6 Express および Enterprise カードを使用し、次の機能を提供する完全な機能を備えた製品です。 <ul style="list-style-type: none"> • オペレーティングシステムの展開 • ハードウェアの診断 • USC の設定 • プラットフォームのアップデート • ハードウェア構成 • ハードウェアインベントリの表示とエクスポート • ライフサイクルログの表示とエクスポート • プラットフォームの復元 	いいえ	はい

USC または USC - LCE は、システムの構成に応じて、システムでサポートされている機能を表示します。表 1-2 に、USC/USC-LCE の製品分類を示します。例えば、デルシステム y11x シリーズの y は、M、R、T などのアルファベットを、x は数字を表します。

表 1-2 製品の分類

Dell システムシリーズ	オプション	利用可能なシステム管理デバイス	USC または USC-LCE	利用可能な機能
y11x	オプションなし	組み込み BMC	USC	BMC - オペレーティングシステム展開、ハードウェア診断、USC 設定

表 1-2 製品の分類 (続き)

Dell システムシリーズ	オプション	利用可能なシステム管理デバイス	USC または USC-LCE	利用可能な機能
y21x ~ y51x	Standard	組み込み BMC	USC	BMC - オペレーティングシステム展開、ハードウェア診断、USC 設定
	オプション	組み込み BMC + iDRAC6 Express カード	USC-LCE	BMC - オペレーティングシステム展開、ハードウェア診断、USC 設定 iDRAC6 Express - プラットフォームアップデート、ハードウェア設定、ドライバリポジトリ、ライフサイクルログ、ハードウェアインベントリ（現在および工場出荷時）を追加します。
		組み込み BMC + iDRAC6 Express カード + iDRAC6 Enterprise カード	USC-LCE	BMC - オペレーティングシステム展開、ハードウェア診断、USC 設定 iDRAC6 Express - プラットフォームアップデート、ハードウェア設定、ドライバリポジトリ、ライフサイクルログ、ハードウェアインベントリ（現在および工場出荷時）を追加します。 iDRAC6 Enterprise - 完全なリモート管理、専用 NIC ポート、仮想コンソール、仮想メディア、部品交換、vFlash SD カードの管理、プラットフォームの復元を追加します。

表 1-2 製品の分類 (続き)

Dell システムシリーズ	オプション	利用可能なシステム管理デバイス	USC または USC-LCE	利用可能な機能
y61x to y91x	Standard	iDRAC6 Express カード搭載の組み込み BMC	USC-LCE	iDRAC6 Express 搭載の BMC - オペレーティングシステム展開、ハードウェア診断、USC 設定、プラットフォームアップデート、ハードウェア構成、ドライバリポジトリ、ライフサイクルログ、ハードウェアインベントリ（現在および工場出荷時）
	オプション ¹	iDRAC6 Express カード + iDRAC6 搭載の組み込み BMC Enterprise カード	USC-LCE	iDRAC6 Express 搭載の BMC - オペレーティングシステム展開、ハードウェア診断、USC 設定、プラットフォームアップデート、ハードウェア構成、ドライバリポジトリ、ライフサイクルログ、ハードウェアインベントリ（現在および工場出荷時） iDRAC6 Enterprise - 完全リモート管理、専用 NIC ポート、仮想コンソール、仮想メディア、部品交換、vFlash SD カードの管理、プラットフォームの復元を追加します。

1. Dell ブレードシステムの場合 — BMC、iDRAC6 Express カード、および iDRAC6 Enterprise カードは標準構成として含まれています。

USC / USC - LCE 1.5 の新機能

次の新機能が追加されています。

- サーバードプロファイルのバックアップおよびエクスポート
- サーバードプロファイルのインポート
- 工場出荷時のインベントリの表示およびエクスポート
- 統合型ネットワークアダプタ (CNA) カード用のファームウェアの設定およびアップデート。次の CNA カードでサポートされていません。

Broadcom :

- M710HD デュアルポート 10Gig 57712 NDC
- ソフトウェアの RAID 設定¹
- RAID 設定機能の拡張 — 仮想ディスクのスライスをサポート。
- 新しいオペレーティングシステム用のドライバパックのサポート¹。
詳細については、support.dell.com/manuals にある『Dell システムソフトウェアサポートマトリックス』の「USC/USC-LCE – Supported Dell Systems and Operating Systems」の項を参照してください。

1. USC に新たに導入された機能を示します。

USC または USC-LCE へのアップグレード

お使いのシステムによっては、Baseboard Management Controller (BMC) から iDRAC6 (Integrated Dell Remote Access Controller 6) Express または iDRAC6 Enterprise カードにアップグレードできます。このハードウェアアップグレードでは USC から USC - LCE へのアップグレードが実行されます。詳細については、[プラットフォームのアップデート](#) を参照してください。



メモ：デルシステムシリーズ y21x ~y51x を USC-LCE にアップグレードすることができます。詳細に関しては、『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。

その他の必要マニュアル

このガイド以外にも、デルサポートサイト

support.dell.com/manuals から次のガイドを入手できます。 **マニュアル** ページで、 **ソフトウェア** → **Systems Management** をクリックします。右側の製品リンクをクリックして、ドキュメントにアクセスします。

- 『ブレードサーバー用 Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) Enterprise ユーザーガイド』は、ブレードサーバー用に iDRAC6 を設定して使用し、ネットワーク経由でリモートからお使いのシステムとその共有リソースを管理・監視する方法について記載しています。
- 『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーガイド』では、ネットワークを経由してお使いのシステムとその共有リソースをリモートで管理および監視するため、タワー型およびラック型サーバーに iDRAC6 を設定して使用する方法についての全情報が記載されています。
- 『Dell Repository Manager ユーザーガイド』は、サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行するシステム用に、Dell Update Packages (DUP) で構成されるカスタムバンドルおよびリポジトリを作成する方法についての情報を提供します。
- 『Dell システムソフトウェアサポートマトリックス』の「USC/USC-LCE Supported Dell Systems and Operating Systems」の項では、ターゲットシステムで展開可能な Dell システムおよびオペレーティングシステムの一覧が掲載されています。
- 『PERC H700 and H800 Technical Guidebook』は、PERC H700 および H800 コントローラに関する仕様および設定関連の情報です。
- 『Dell Systems Build and Update Utility (SBUU) ユーザーズガイド』では、Dell システムの導入およびアップデートのための情報が記載されています。
- 用語集 では、本書で使用されている用語について説明しています。

USC または USC-LCE の使い方

USC または USC-LCE を使用する前に、次の前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

- ネットワークが設定されていること。
- システムに iDRAC および BIOS の最新版がインストールされていること。詳細に関しては、[Readme](#) を参照してください。

USC または USC-LCE の起動

システムの起動中に USC または USC-LCE を起動するには、Dell のロゴが表示されてから 10 秒以内に **<F10>** キーを押して、**システムサービス** を起動します。USC または USC-LCE の初回起動時に、**USC の設定** ウィザードが表示され、希望の言語とネットワーク設定を設定できます。詳細については、[USC 設定ウィザードの使用](#) を参照してください。



メモ：システムで **システムサービス** が開始されない場合は、表 2-1 の原因と解決法を参照してください。

起動時メッセージ — 原因および解決法

表 2-1 に、システム起動中に表示されるメッセージの一覧および、その原因と解決方法を示します。

表 2-1 起動時エラーメッセージ — 原因および解決法

メッセージ	原因	解決
システムサービスが無効です	<ul style="list-style-type: none"> • iDRAC の初期化中にシステムの電源がオンになったか、再起動されています。これは、次の場合に発生します。 <ul style="list-style-type: none"> - AC 電源がシステムに接続された直後にシステムの電源がオンになった。 - システムが、iDRAC をリセットした直後に再起動された。 • 製品を手動で無効にした。 	<ul style="list-style-type: none"> • iDRAC を初期化できるように、iDRAC のリセット後に 1 分間待って、システムを再起動する。 • USC または USC-LCE の無効化については、USC または USC-LCE を無効にする を参照してください。
システムサービスのアップデートが必要です	<p>製品を保存する組み込みデバイスに、破損したデータが含まれている可能性があります。</p>	<p>USC または USC-LCE の Dell アップデートパッケージ (DUP) を使用して、製品をアップデートしてください。詳細については、support.dell.com/manuals にある『Dell Update Packages ユーザーズガイド』を参照してください。</p> <p>システムにオペレーティングシステムがインストールされていない場合、または DUP を実行しても問題が解決されない場合は、USC または USC-LCE 修復パッケージを実行します。詳細に関しては、USC の修復 または USC-LCE の修復 を参照してください。</p>

表 2-1 起動時エラーメッセージ — 原因および解決法

メッセージ	原因	解決
システムサービスを利用できません	現在別のプロセスで iDRAC を使用している可能性があります。	現在のプロセスが終了するまで 30 分間待ち、システムを再起動してから再試行してください。または、 システムサービス起動要求のキャンセル を参照してください。

USC または USC-LCE を有効にする

- 1 システムの起動後、5 秒以内に <Ctrl><E> を押します。
iDRAC6 設定ユーティリティ が表示されます。
- 2 **システムサービス** に移動します。
- 3 **システムサービスを無効にする** を選択します。
- 4 変更内容を保存し、**iDRAC6 設定ユーティリティ** を終了します。システムは自動的に再起動します。

USC または USC-LCE を無効にする

起動中にシステムが USC または USC_LCE を起動しないようにするには、次の手順を行います。

- 1 システムの起動後、5 秒以内に <Ctrl><E> を押します。
iDRAC6 設定ユーティリティ が表示されます。
- 2 **システムサービス** に移動します。
- 3 **システムサービスを無効にする** を選択します。
- 4 変更内容を保存し、**iDRAC6 設定ユーティリティ** を終了します。システムは自動的に再起動します。

システムサービス起動要求のキャンセル

USC または USC - LCE によってシステムが繰り返し再起動する場合は、システムサービスの起動要求をキャンセルすることもできます。

△ **注意：**この処置は、**USC** または **USC - LCE** が実行中のすべてのタスクをキャンセルします。やむを得ない場合以外、システムサービスの起動要求はキャンセルしないことを強くお勧めします。

- 1 システムの起動後、5 秒以内に <Ctrl><E> を押します。
iDRAC6 設定ユーティリティ ページが表示されます。
- 2 **システムサービス** に移動します。

- 3 **システムサービスのキャンセル** を選択します。
- 4 変更内容を保存し、**iDRAC6 設定ユーティリティ** を終了します。システムは自動的に再起動します。

USC を初めて使用する場合

USC を初めて使用する場合、次のウィザードを実行することをお勧めします。

- 1 **USC の設定** — このウィザードを実行して、言語、キーボード、ネットワーク設定を変更します。
- 2 **OS 導入** — このウィザードを実行してオペレーティングシステムをインストールします。
- 3 **ハードウェアの診断** — システムを維持するため、診断チェックを定期的に行います。

関連項目

[USC および USC - LCE の機能](#)

USC-LCE を初めて使用する場合

USC-LCE を初めて使用する場合、次のウィザードを実行することをお勧めします。

- 1 **USC の設定** — このウィザードは、言語、キーボード、ネットワーク設定の変更のみに使用します。
- 2 **プラットフォームアップデート** — アップデートを適用します。

関連項目

- [USC 設定ウィザードの使用](#)
- [プラットフォームのアップデート](#)

USC 設定ウィザードの使用

USC の設定 ウィザードを使用すると、USC または USC - LCE に限り、言語、キーボードレイアウト、およびネットワーク設定を指定できます。これによってシステムや他のアプリケーションの設定は変更されません。

言語とキーボードの種類を選択します。

- 1 左ペインで、**USC の設定** をクリックします。
- 2 右ペインで、**言語とキーボード** をクリックします。オプションの選択は、上下の矢印を使用して行います。
 - a **言語** ドロップダウンメニューから、言語を選択します。
 - b **キーボードの種類** ドロップダウンメニューから、キーボードの種類を選択します。
- 3 **完了** をクリックし、新しい設定を保存します。

ネットワーク設定の設定 (NIC カード)

- 1 左ペインで、**USC の設定** をクリックします。
- 2 右ペインで、**ネットワーク設定** をクリックします。
 - a **NIC カード** ドロップダウンメニューから、設定する NIC カードを選択します。
 - b **IP アドレスソース** ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオプションを選択します。



メモ：IP アドレスソース機能は IPv4 しかサポートしていません。


- **設定なし** — NIC を設定しません。
- **DHCP** — DHCP サーバーから IP を取得します。
- **静的 IP** — 静的 IP アドレスを使用します。**IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイおよび、DNS アドレス** の IP アドレスのプロパティを指定します。この情報が不明の場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

- 3 **完了** をクリックし、設定を保存します。



メモ：USC 設定が正しく指定されないと、エラーメッセージが表示されます。

ヘルプへのアクセス

USC または USC - LCE の各画面には、右上に **ヘルプ** アイコンがあります。**ヘルプ**  をクリックすると、現在の画面のヘルプが表示されます。

Readme の表示

バージョン情報 → **Readme の表示** をクリックして **Readme** ファイルを表示します。

USC および USC - LCE の機能

本章では、Unified Server Configurator (USC) および Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled (USC - LCE) の機能について簡単に説明します。また、USC-LCE を効率的に使用するための USC および USC-LCE 関連のウィザードについても説明します。表 3-1 に、USC および USC-LCE がサポートしている機能を示します。各機能は、USC および USC-LCE のウィザードです。

表 3-1 USC および USC-LCE のウィザード

ウィザード / メニュー	説明	USC	USC-LCE
ホーム	ホーム 画面に戻ります。	はい	はい
ライフサイクルログ	ライフサイクルログを表示およびエクスポートし、ライフサイクルログにワークノートを追加します。	はい え	はい
USC - LCE プラットフォームアップデートおよびプラットフォームのロールバック	システムへのアップデートの適用や、プラットフォームのロールバックを実行します。	はい え	はい
ハードウェア構成	システムデバイスを設定します。	はい え	はい
オペレーティングシステムの展開	オペレーティングシステムをインストールします。	はい	はい
プラットフォームの復元	システムプロファイルをバックアップ、エクスポート、復元します。	はい え	はい

表 3-1 USC および USC-LCE のウィザード (続き)

ウィザード / メニュー	説明	USC	USC-LCE
ハードウェアの診断	メモリ、I/O デバイス、CPU、物理ディスク、その他の周辺機器の診断を実行し、検証を行います。	はい	はい
USC 設定ウィザードの使用	USC または USC-LCE 使用時の、言語、キーボードのレイアウト、およびネットワーク設定を指定します。	はい	はい
バージョン情報	USC-LCE および UEFI のバージョン情報を表示します。	はい	はい

ライフサイクルログ

Lifecycle Controller は、管理対象ノードにインストールされている関連コンポーネントのファームウェア変更の履歴を提供します。ログには、次の内容が表示されます。

- デバイス、バージョンおよび、日付ごとのファームウェアアップデート履歴。
- 重要度、カテゴリ、日付ごとのイベント
- 日付ごとのユーザーコメント履歴



メモ：ライフサイクルログは、オペレーティングシステムがシステムにインストールされていなくても利用可能で、システムの電源状態にも依存しません。

このウィザードを使用して、ログ履歴の表示、エクスポート、ログ履歴へのワークノートの追加を行うことができます。

関連項目

- [ライフサイクルログ履歴の表示](#)
- [ライフサイクルログのエクスポート](#)
- [ワークノートのライフサイクルログへの追加](#)

USC - LCE プラットフォームアップデート

プラットフォームアップデート ウィザードを使用して、次の操作を行います。

- インストールされたアプリケーションの現行バージョンおよびファームウェア情報を表示する。
- 使用可能なアップデートの一覧を表示する。
- 必要なアップデートを選択、ダウンロード（自動）して、アップデートを適用する。

最適なシステムパフォーマンスを確保し、システムの問題を回避するには、定期的にアップデートをダウンロードして適用することをお勧めします。

お客様の職場でのアップデートへのアクセス方法については、IT 管理者に問い合わせてください。IT 管理者は、次の場所またはメディアのいずれかにアップデートを提供してください。

- FTP サーバー
- ローカル USB デバイス
- [Dell Server Updates](#) DVD
- ネットワーク共有

FTP サーバーまたはネットワークの共有をアップデートに使用する場合は、**USC の設定** ウィザードを使用してネットワークカードを設定した後でアップデートにアクセスします。

関連項目

- [プラットフォームのアップデート](#)

FTP 認証


USC は、空白のユーザー名、任意のパスワード、および FTP サーバーのアドレスを、カタログ情報のダウンロード元となる FTP サーバーで認証する匿名ログインをサポートしています。ファイアウォールを使用している場合は、ポート 21 で発信 FTP トラフィックを許可するように設定します。また、FTP の応答トラフィックの着信を許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。

関連項目

- [USC 設定ウィザードの使用](#)
- [プラットフォームのアップデート](#)
- [ローカル FTP サーバーの設定](#)


プラットフォームのロールバック

USC - LCE を使用することにより、以前にインストールした BIOS またはファームウェアのバージョンにロールバックできます。現在インストールされているバージョンに問題があり、以前にインストールしたバージョンに戻りたい場合、この機能の使用をお勧めします。

 **メモ：**ハードウェア診断アプリケーションおよびオペレーティングシステムのドライバパックは、以前のバージョンにロールバックすることはできません。

この機能は、次の場合にのみ使用できます。

- USC-LCE のアップデート機能を使用して BIOS とファームウェアをアップデートしている場合。
- オペレーティングシステムをインストール後に Dell アップデートパッケージを使用して、システムの BIOS またはファームウェアをアップデートしている場合

 **メモ：**その他のアップデート方法を使用した場合、この機能は利用できません。

関連項目

- [BIOS およびファームウェアの以前のバージョンへのロールバック](#)


ハードウェア構成

USC-LCE は、ハードウェアの設定用に次のようなウィザードを提供します。

設定ウィザード

設定ウィザードを使用して、システムデバイスを設定します。設定ウィザードには、物理セキュリティ設定、システムの日付 / 時刻設定、iDRAC 設定、RAID 設定、キー暗号化、vFlash SD カードの設定が含まれます。


関連項目

- [システムコントロールパネルへのアクセスの制御](#)
- [システム日時設定](#)
- [iDRAC の設定](#)
- [RAID 構成](#)
-  **メモ：OS 導入** ウィザードを使用して、RAID を設定することもできます。詳細については、[を参照してください。](#) [オペレーティングシステム展開ウィザードを使用した RAID の設定](#)
- [シリーズ7 コントローラでのセキュアな仮想ディスクの作成](#)
- [vFlash SD カードの設定](#)
- [キーの暗号化](#)

HII 詳細設定

ヒューマンインタフェースインフラストラクチャ (HII) を使用して、BIOS および NIC 等のデバイスを設定できます。詳細については、[HII 詳細設定](#)を参照してください。


ハードウェアインベントリ - 表示とエクスポート

-  **メモ：**iDRAC ファームウェアをサポートされているバージョンにアップデートしていないと、ハードウェアインベントリ機能は無効になります。iDRAC ファームウェアは、ブレードシステムにはバージョン 3.2 を、ラックおよびタワーシステムには 1.7 を必ずインストールしてください。

現在のインベントリの表示およびエクスポートについて

現在システムシャーシ内にあるインストール済みのハードウェアのコンポーネントに関する、ハードウェアおよび各コンポーネントの設定に関する情報を表示できます。表に、現在インストールされているすべてのハードウェアコンポーネント（例：ファン、PCI デバイス、NIC、DIMM、PSU、等）ならびに、それぞれのコンポーネントのプロパティと値を示します。**ハードウェアコンポーネントでフィルタ** ドロップダウンメニューから、プロパティと値を表示するハードウェアを選択します。この情報は、XML 形式で **USB デバイス** または **ネットワーク** 共有にエクスポートすることができます。XML ファイルは、*HardwareInventory_<servicetag>_<timestamp>.xml* の形式で保存されます。

ハードウェアコンポーネントの使いやすい名前の詳細に関しては、表 B-1 を参照してください。

 **メモ：設定を削除してデフォルトにリセット** の実行後は、誤ったインベントリデータが表示またはエクスポートされます。正確なインベントリデータの表示についての詳細に関しては、[Lifecycle Controller リセット後のハードウェアインベントリの表示およびエクスポート](#) を参照してください。

関連項目

- [ハードウェアインベントリの表示 – 現在または工場出荷時](#)
- [ハードウェアインベントリのエクスポート – 現在または工場出荷時](#)

工場出荷時のインベントリの表示およびエクスポートについて

工場出荷時に取り付けられたハードウェアのコンポーネントと、その設定を表示することができます。表に、工場出荷時に取り付けられたすべてのハードウェアコンポーネント（例：ファン、PCI デバイス、NIC、DIMM、PSU、等）ならびに、それぞれのコンポーネントのプロパティおよび値を示します。**ハードウェアコンポーネントでフィルタ** ドロップダウンメニューから、プロパティと値を表示するハードウェアを選択します。この情報を XML 形式で **USB デバイス** または **ネットワーク共有** のいずれかまたは両方にエクスポートできます。

ハードウェアコンポーネントの使いやすい名前の詳細に関しては、表 B-1 を参照してください。

工場出荷時のインベントリの表示とエクスポート機能は、次のいずれかの理由でシステムに灰色表示される場合があります。

- この機能には工場出荷時取り付けのデータが必要。現在のバージョンでこの機能はサポートされているものの、システム内に工場出荷時取り付けのデータが存在していない。
- 設定の削除とデフォルトのリセット が適用され、機能が工場出荷時のイベントリから完全に削除されている。

関連項目

- [ハードウェアインベントリの表示 – 現在または工場出荷時](#)
- [ハードウェアインベントリのエクスポート – 現在または工場出荷時](#)

設定の削除とデフォルトのリセット

現在の iDRAC の設定内容を削除して、工場出荷時のデフォルト設定にリセットすることができます。このとき、管理下ノードのライフサイクルログおよび、工場出荷時のインベントリ情報も削除されます。詳細については、[設定の削除とデフォルトのリセット](#)を参照してください。

オペレーティングシステムの展開

ドライバへのアクセス

USC の場合

USC にはローカルリポジトリがないか、Dell Update Package (DUP) 単体をサポートしていません。次のいずれかの方法でドライバパッケージにアクセスします。

- <ftp.dell.com>
- ローカル FTP
- USB デバイス
- [Dell Systems Build and Update Utility DVD](#)

関連項目

[オペレーティングシステムのドライバのソースロケーションの選択 \(USC のみ\)](#)

USC-LCE の場合


USC-LCE には、オペレーティングシステムのインストールに必要な、ドライバ用のローカルリポジトリがあります。インストールされているオペレーティングシステムに基づき、**OS 導入** ウィザードでドライバを解凍して、ステージングディレクトリにコピーします。



メモ： USC-LCE には工場出荷時にドライバの組み込みおよびインストールが行われていますが、使用可能な最新のドライバがある場合があります。オペレーティングシステムのインストール前に、**プラットフォームアップデート** ウィザードを実行して、最新のドライバを使用可能なことを確認してください。詳細については、[プラットフォームのアップデート](#)を参照してください。

ドライバの解凍

オペレーティングシステムに必要なドライバや、インストール後にシステムのアップデートに推奨されるドライバは、一時的な場所で解凍されます。これらのファイルは、18 時間後に削除されます。または <F10> キーを押してオペレーティングシステムのインストールをキャンセルするか、再起動後に USC を再開した場合に削除されます。

 **メモ：** オペレーティングシステムのインストール後、一時的な場所にドライバが解凍されると、18 時間は、DUP を使用して USC、USC-LCE、ドライバ、またはハードウェア診断をアップデートできません。この間に DUP を使用してアップデートしようとする、別のセッションが開いているというメッセージが表示されます。

ドライバのインストール方法

表 3-2 に、オペレーティングシステム別のドライバのインストール方法を示します。

表 3-2 ドライバのインストール方法

オペレーティングシステム	インストール方法
Microsoft Windows オペレーティングシステム	解凍されたドライバは、オペレーティングシステムのインストール中にインストールされます。
メモ： 詳細については、USC-LCE readme を参照してください。	
Red Hat Linux Enterprise Linux バージョン 4.8	オペレーティングシステムのインストール完了後に、解凍されたドライバを手動でインストールします。
Red Hat Enterprise Linux バージョン 5.5、SUSE Linux Enterprise Server バージョン 10 SP3、SUSE Linux Enterprise Server バージョン 11 SP1 以降	解凍されたドライバは、オペレーティングシステムのインストール中にインストールされます。

RAID 設定

オペレーティングシステムのインストール中、次のいずれかの操作を行うことができます。

- RAID を設定せずにオペレーティングシステムを導入する
- オプションの RAID 設定ウィザードを使用してディスクを設定し、オペレーティングシステムを導入する。

表 3-3 に、RAID コントローラの可用性および選択されたオプションに基づいた USC または USC-LCE の動作を示します。

表 3-3 RAID 設定

RAID コントローラの可用性	操作
<ul style="list-style-type: none">• システムに RAID コントローラがない• オプションの RAID 設定をバイパスする	OS 導入 ウィザードで、オペレーティングシステムをデフォルトの場所（通常は BIOS ユーティリティでディスク 0 と識別される場所）にインストールします。
<ul style="list-style-type: none">• システムには RAID コントローラがあり、オプションの RAID 設定を選択している	仮想ディスクを設定して、仮想ディスクをブートデバイスとして選択します。

プラットフォームの復元

部品交換設定

この機能を使用して、新しい部品または交換した部品のいずれか一方または両方の設定を、ファームウェアのバージョンに自動でアップデートします。

関連項目

- [部品交換設定](#)

サーバープロファイルのバックアップ

この機能を使って次の操作を行い、バックアップイメージファイルを vFlash SD カードに保存します。

- 次のバックアップを行います。
 - BIOS、LOM、USC がサポートされたアドイン NIC カードおよび、ストレージコントローラ（RAID レベル、仮想ディスクおよびコントローラの属性）等のハードウェアおよびファームウェアのインベントリ
 - システム情報
 - ライフサイクルコントローラのファームウェアイメージ、データおよび設定、ならびに iDRAC ファームウェアと設定
- オプションで、バックアップイメージファイルをパスワードで保護

バックアップ時のシステムまたは機能の動作

- システムサービスは利用できません。
- vFlash SD カードに、バックアップイメージファイルを保存するためのラベル名、SRVCNF の付いたパーティションが自動で作成されます。ラベル名 SRVCNF の付いたパーティションが既に存在する場合は、上書きされます。
- 時間はサーバーの構成によって異なり、最大 45 分かかります。
- 全体がバックアップされ、1 つのデバイスのみバックアップ（例えば、LOM ファームウェアと設定のみ）を行うことはできません。
- 診断やドライバパックの情報はバックアップされません。

関連項目

サーバープロファイルのバックアップ

サーバープロファイルのエクスポート

この機能を使用して、vFlash SD カードにあるバックアップイメージファイルを、USB デバイスまたはネットワーク共有にエクスポートします。

エクスポート時のシステムまたは機能の動作

- 時間はサーバーの構成によって異なり、最大 15 分かかります。
- USC -LCE では **DELLBR _< サービスタグ >_< タイムスタンプ >.img** 形式でバックアップイメージをエクスポートします。バックアップイメージファイル名から < サービスタグ > がコピーされます。< タイムスタンプ > は、バックアップが開始された時の時刻です。
- エクスポートが正しく完了すると、このイベントのログがライフサイクルログに保存されます。

関連項目

- [サーバープロファイルの USB デバイスまたはネットワーク共有へのエクスポート](#)
- [ライフサイクルログ履歴の表示](#)

サーバープロファイルのインポート

この機能を使って、サーバーのインポートおよび、既知の動作状態へのバックアップイメージファイル（vFlash SD カード、ネットワーク共有または USB にある）からの復元を行います。



メモ：復元ジョブをキャンセルするには、POST 実行中に Ctrl-E を押して、**システムサービスのキャンセル** を選択するか、iDRAC をリセットします。この操作で復元処理が開始され、システムが以前の既知の状態に復元されます。復元処理は、5 分以内に終了します。復元処理が完了したかどうかチェックするには、ライフサイクルログを見ます。

インポート時のシステムまたは機能の動作

- 復元中に使用できないシステムサービスは、システムのシャットダウン後に有効になります。
- バックアップされた内容をすべて復元します。
- インポートは、サーバーの構成により異なりますが 45 分以内に終了します。
- 診断またはドライバパックの情報は復元されません。
- システムサービスでタスクを実行中に別の再起動が発生するのは、デバイス構成の設定中に問題が発生し、タスクを再実行しようとしているためです。エラーの発生したデバイスに関する情報については、ライフサイクルログを確認してください。
- カードが収納されているスロットを以前に変更している場合、カードのインポート動作でエラーが発生します。
- システムは、すべてのライフサイクルコントローラの内容を復元します。

関連項目

- [vFlash SD カード、ネットワーク共有、USB デバイスからのサーバープロファイルのインポート](#)
- [マザーボード交換後のサーバープロファイルのインポート](#)

ハードウェアの診断

システムおよびシステムに接続しているハードウェアが正しく機能していることを確認するために、定期メンテナンスの一環として、**ハードウェア診断ユーティリティ**を使用して診断を実行することをお勧めします。診断ユーティリティには接続ハードウェアの物理ビュー（論理ビューではない）があるため、オペレーティングシステムやその他のオンラインツールで検出できないハードウェアの問題を特定できます。ハードウェア診断ユーティリティは、メモリ、入出力装置、CPU、物理ディスク、その他の周辺装置の確認に使用できます。

関連項目

- [ハードウェア診断の実行](#)
- [ハードウェア診断ユーティリティのアップデート](#)

USC または USC - LCE の修復

電源投入時の自己テスト (POST) 中に、システムに システムサービスのアップデートが必要です。メッセージが表示された場合、USC または USC-LCE を保存している組み込みデバイスに破損したデータが含まれている可能性があります。この問題を解決するには、次の項を参照してください。

- [USC の修復](#)
- [USC-LCE の修復](#)

RAID 構成

USC-LCE はソフトウェア RAID とハードウェア RAID オプションの両方をサポートしています。

関連項目

- [ハードウェア RAID を使用した RAID の設定](#)
- [ソフトウェア RAID を使用した RAID の設定](#)

キーの暗号化

この機能を使って、次を実行します。


- PERC H700/H800 RAID コントローラの暗号化を、次のいずれかの方法で設定します。
 - ローカルキー暗号化 — RAID コントローラのローカルキーに適用し、キーを削除します。
 - 暗号化なし — コントローラに暗号化を適用せず、**ローカルキー暗号化の設定** オプションを使用できます。

関連項目


- [RAID コントローラでのローカルキーの適用](#)
- 既存のセキュアではない仮想ディスクを暗号化します。これを行うには、コントローラで暗号化を有効にします。

ローカルキーの暗号化モード

コントローラがローカルキー暗号化モードにあるとき、次のタスクを実行できます。

 **メモ：** PERC H700 および H800 コントローラの仕様および設定の詳細については、『PERC H700 and H800 Technical Guidebook』を参照してください。

- セキュアでない仮想ディスクの暗号化 — セキュリティ機能を持つがセキュアではないすべての仮想ディスクで、データ暗号化を有効にします。

 **メモ：** このオプションは、セキュリティ機能を備えたコントローラに接続された仮想ディスクがある場合に使用できます。

- コントローラおよび暗号化されたディスクを、新しいキーで **rekey** する — 既存のローカルキーを新規キーで置き換えます。
- 暗号化を削除してデータを消去する — コントローラの暗号化キーと、セキュアなすべての仮想ディスクとそのデータを、削除します。消去後、コントローラの状態は暗号化なしモードに変わります。

関連項目

- [セキュアでない仮想ディスクの暗号化](#)
- [コントローラを新しいキーで Rekey する](#)
- [暗号化を削除してデータを消去する](#)

USC および USC-LCE の操作

本項は、Unified Server Configurator (USC) および Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled (USC-LCE) で様々な操作を行うために必要なタスクを説明します。

ハードウェアインベントリの表示 – 現在または工場出荷時

現在または工場出荷時に取り付けられた、ハードウェアのコンポーネントと構成を表示するには、次の手順を行います。

- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 **現在のインベントリの表示** または **工場出荷時のインベントリの表示** をクリックして、現在または工場出荷時のインベントリを表示します。

関連項目

- [現在のインベントリの表示およびエクスポートについて](#)
- [工場出荷時のインベントリの表示およびエクスポートについて](#)

ハードウェアインベントリのエクスポート – 現在または工場出荷時

現在または工場出荷時に取り付けられた、ハードウェアのコンポーネントと構成をエクスポートするには、次の手順を行います。

必要条件

- ネットワーク共有を使用する場合、正しい **ネットワーク設定** を設定してください。詳細については、[USC 設定ウィザードの使用](#)を参照してください。
- エクスポートしたファイルを USB デバイスに保存する場合は、USB デバイスが管理対象ノードに接続されていることを確認します。
- エクスポートしたファイルをネットワーク共有で保存する場合、正しいログイン権限のある共有フォルダを所有していることを確認します。

ワークフロー

現在または工場出荷時のインベントリをエクスポートするには、次の手順を行います。

- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 **現在のハードウェアインベントリのエクスポート** または **工場出荷時のハードウェアインベントリのエクスポート** をクリックします。
- 3 **USB デバイス** または **ネットワーク共有** を選択します。

USB デバイス

インベントリログをローカル USB ドライブにエクスポートする場合は、**USB デバイス** を選択します。

- a **デバイスの選択** ドロップダウンメニューから、必要なデバイスを選択して、そのデバイスのフォルダへのパスを入力します。
パスが提供されない場合、ファイルはデバイスのルートの場所に保存されます。
- b **完了** をクリックして、インベントリをエクスポートします。

ネットワーク共有

ネットワーク上の共有フォルダにファイルを保存したい場合は、**ネットワーク共有** を選択します。

ネットワーク共有を使用してエクスポートするには、**CIFS** または **NFS** を選択し、次の詳細を入力します。

CIFS の場合

- **共有名** — ファイルをエクスポートするには、共有フォルダへのパスを入力します。例えば、**yzyzxxx.xxx.xx.xxyzsharename** と入力します。
- **ドメインおよびユーザー名** — ネットワーク共有のログオンに必要な正しいドメインおよびユーザー名を入力します。たとえば、次のとおりです。**login-name@myDomain** と入力し、ドメインがない場合は **login-name** と入力します。
- **パスワード** — 正しいパスワードを入力します。
- **ファイルの場所** — サブディレクトリがあれば入力します。例えば、**2010yzApr** と入力します。


NFS の場合

- **共有名** — ファイルを保存する必要のある共有フォルダへのパスを入力します。例えば、
`zyyzxxx.xxx.xx.xxyzsharename` と入力します。
 - **ファイルの場所** — サブディレクトリがあれば入力します。
例えば、**2010yzApr** と入力します。
- 4 **ネットワーク接続のテスト** をクリックして、USC-LCE が用意した IP アドレスに接続可能かどうかを検証します。デフォルトで、ゲートウェイおよび DNS サーバーの IP を ping します。
 - 5 **完了** をクリックして、インベントリをエクスポートします。

関連項目

- [現在のインベントリの表示およびエクスポートについて](#)
- [工場出荷時のインベントリの表示およびエクスポートについて](#)

Lifecycle Controller リセット後のハードウェアインベントリの表示およびエクスポート

 **メモ**：設定を削除してデフォルトにリセットの実行後、システムがシャットダウンします。

Lifecycle Controller をリセットした後に、ハードウェアインベントリデータを表示、またはエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 システムに電源を投入して、iDRAC が機能し始めるまで数分待ちます。
- 2 **Collect System Inventory on Restart (CSIOR)** はリセット後に有効化されないため、システムインベントリを収集するために <F10> を押して USC を起動します。USC の起動後、ウィザードを終了してシステムが再起動するのを待ちます。
- 3 電源コードを外し、30 秒待ちます。電源コードを再度接続し、システムを USC から起動します。

プラットフォームのアップデート

プラットフォームのアップデート ウィザードを使用して、USC - LCE の最新バージョンにアップデートできます。**プラットフォームのアップデート** ウィザードを定期的に行って、最新のアップデートにアクセスすることをお勧めします。USC-LCE では、個々の DUP（シングルコンポーネント DUP）を使用してファームウェアおよび BIOS をアップデートできます



メモ：シングルコンポーネント DUP のファイル名には、空白スペースが無いことを確認してください。

関連項目

- [プラットフォームアップデートウィザードの起動](#)
- [ダウンロード方法の選択](#)
- [現在のバージョン情報の表示](#)

バージョンの互換性

バージョンの互換機能により、システムコンポーネントとの互換性を持つライフサイクルコントローラ、BIOS および、iDRAC のバージョンをインストールすることができます。アップデート中に互換性の問題が発生した場合は、ライフサイクルコントローラにアップグレードまたはダウングレードのエラーメッセージが表示されます。

現在のバージョン情報の表示

各種システムコンポーネントファームウェアの現在のバージョンおよびタイムスタンプを表示するには、次の手順を行います。

- 1 左ペインで、**プラットフォームのアップデート** をクリックします。
- 2 右ペインで、**現在のバージョンの表示** をクリックします。

プラットフォームアップデートウィザードの起動

プラットフォームアップデート ウィザードを起動するには、次の手順を行います。

- 1 左ペインで、**プラットフォームアップデート** をクリックします。
- 2 右ペインで、**プラットフォームアップデートの起動** をクリックします。

ダウンロード方法の選択

プラットフォームアップデート ウィザードを使用してアップデートをダウンロードするには、次のいずれか 1 つのソースを使用します。

- FTP サーバー
 - [Dell FTP サーバー](#)
 - [プロキシサーバーの設定](#)
- ✎ **メモ:** <ftp.dell.com> からダウンロードされるカタログファイルおよび DUP は、ソースのルートフォルダにコピーされるようにしてください。
- ローカル FTP — 詳細については、[ローカル FTP サーバーにあるアップデートへのアクセス](#)を参照してください。
- [ローカルドライブ](#)
- [ネットワーク共有](#)
- [Dell Server Updates DVD](#)

Dell FTP サーバー

Dell の FTP サーバーからドライバをダウンロードするには、**アドレス** フィールドに **ftp.dell.com** と入力します。

プロキシサーバーの設定

プロキシサーバーを使用して FTP サーバーからドライバをダウンロードするには、次の手順を行います。

- 1 **FTP サーバー**を選択します。
- 2 次の詳細を入力します。
 - **アドレス** — ローカル FTP サーバーの IP アドレスまたは **ftp.dell.com**
 - **ユーザー名** — FTP ロケーションにアクセスするためのユーザー名。
 - **パスワード** — この FTP ロケーションにアクセスするためのパスワード。
 - **カタログの場所またはパッケージパスのアップデート** — カタログのある特定の場所 / サブディレクトリ。
この手順は、オペレーティングシステムのドライバのソース向けのオプション手順です。

✎ **メモ:** カタログファイルおよび DUP を <ftp.dell.com> からダウンロードした場合は、これらをサブディレクトリにコピーしないでください。



- **プロキシサーバー** — プロキシサーバーのサーバーホスト名。
- **プロキシポート** — プロキシサーバーのポート番号。
- **プロキシタイプ** — プロキシサーバーの種類。HTTP と SOCKS 4 のプロキシタイプは USC - LCE でサポートされています。
- **プロキシユーザー名** — プロキシサーバーでの認証に必要なユーザー名。
- **プロキシパスワード** — プロキシサーバーでの認証に必要なパスワード。
- **ネットワーク接続のテスト** — USC-LCE が、用意した IP アドレスに接続可能かどうかを検証。デフォルトで、ゲートウェイと DNS サーバーの IP を ping し、ホストおよびプロキシ IP も ping します。

関連項目

[FTP 認証](#)

ローカルドライブ (CD/DVD/USB)

ローカルドライブ (USB デバイスまたは [Dell Server Updates DVD](#)) からプラットフォームのアップデートを実行するには、次のいずれかの方法を使用します。

- シングルコンポーネント DUP。
 -  **メモ:** シングルコンポーネント DUP のファイル名には、ブランクスペースを使用していないことを確認してください。
- リポジトリ
 -  **メモ:** カタログファイルおよび DUP を <ftp.dell.com> からダウンロードした場合は、これらをサブディレクトリにコピーしないでください。

シングルコンポーネント DUP の使用

- 1 ドロップダウンメニューから、ボリュームラベルを選択します。
- 2 **カタログの場所またはパッケージパスのアップデート** で、DUP の名前 (例: **APP_WIN_RYYYYZZZ.EXE**) を入力するか、DUP がサブディレクトリにある場合は、サブディレクトリ名と DUP の名前 (例: **subdirectoryyzAPP_WIN_RYYYYZZZ.EXE**) の両方を入力します。

リポジトリの使用

- 1 ドロップダウンメニューから、ボリュームラベルを選択します。
- 2 **カタログの場所またはパッケージパスのアップデート** で、カタログファイルがルートフォルダに入っている場合は、ファイル名を入力しないでください。ただし、カタログファイルがサブディレクトリにある場合は、サブディレクトリ名（例：**subdirectory**）を入力します。

関連項目

[ローカル USB デバイスの設定](#)

ネットワーク共有

共有フォルダからネットワークを経由してプラットフォームのアップデートを実行するには、**Network Share**（ネットワーク共有）（**CIFS** または **NFS**）を選択して、詳細を入力します。

- 1 ネットワーク共有の詳細を入力します。詳細については、を参照してください。表 4-1
- 2 **ネットワーク接続のテスト** をクリックして、USC-LCE が用意した IP アドレスに接続可能かどうかを検証します。デフォルトで、ゲートウェイおよび DNS サーバーの IP に接続します。
- 3 **次へ** をクリックします。

表 4-1 ネットワーク共有の詳細

CIFS の場合	NFS の場合
共有名 — DUP またはリポジトリのある共有フォルダへのパス。例えば、 yzzyxxx.xxx.xx.xxyzsharename と入力します。	
ドメインおよびユーザー名 — ネットワーク共有のログオンに必要な正しいドメインおよびユーザー名を入力。例えば、 login-name@myDomain と入力し、ドメインが無い場合は ログイン名 を入力します。	
パスワード — 正しいパスワードを入力。	

表 4-1 ネットワーク共有の詳細

CIFS の場合	NFS の場合
カタログの場所またはパッケージパスのアップデート	
メモ： カタログファイルおよび DUP を ftp.dell.com からダウンロードした場合は、これらをサブディレクトリにコピーしないでください。	
シングルコンポーネント DUP の使用	
メモ： シングルコンポーネント DUP のファイル名には、ブランクスペースが無いことを確認してください。	
DUP の名前（例： APP_WIN_RYYYYZZZ.EXE ）を入力するか、DUP がサブディレクトリにある場合は、サブディレクトリ名と DUP の名前（例： subdirectoryzAPP_WIN_RYYYYZZZ.EXE ）の両方を入力します。	
リポジトリの使用	
カタログファイルがルートフォルダにある場合は、ファイル名を入力しないでください。ただし、カタログファイルがサブディレクトリにある場合は、サブディレクトリ名（例： subdirectory ）を入力します。	

アップデートの選択および適用

アップデートを選択および適用するには、次の手順を行います。

- 1 **ホーム** ページの左ペインで、**アップデートの選択** をクリックします。利用できるアップデートの一覧が表示されます。
- 2 必要なアップデートを選択して、**適用** をクリックします。デフォルトで、**USC-LCE** は、現在のアップデートが利用可能なコンポーネントを選択します。
- 3 **適用** をクリックします。

アップデートプロセスの完了後、システムが再起動します。複数のアップデートを適用する場合、システムが複数のアップデートの間に直接 **USC-LCE** に再起動してアップデートを継続することがあります。

iDRAC ファームウェアアップデートが中断されると、次のファームウェア アップデートを実行する前に、最大で **30 分間** 待たなければなりません。

関連項目

- [バージョンの比較](#)
- [Trusted Platform Module 設定に影響を及ぼすデバイスのアップデート](#)
- [RAID コントローラファームウェアのアップデート](#)

重要

- USC-LCE は、外部ストレージ用の PERC 5/E アダプタ、テープ用の SAS 5i/R アダプタ、PERC S100 および PERC S300 アダプタ、さらに Intel NIC アダプタのアップデートまたはロールバックをサポートしていません。
- 最新バージョンの iDRAC および BIOS を使用していない状態で、USC のプラットフォームアップデートを使用して NIC をアップデートしようとする、NIC **wrapper.efi** エラーが表示される可能性があります。このエラーが発生しないようにするため、最新の BIOS および iDRAC のバージョンにアップグレードします。



注意：USC を使用して電源装置ユニットのファームウェアをアップデートすると、最初のタスク完了後に、システムはシャットダウンします。PSU ファームウェアをアップデートし、自動的に電源がオンになるまで、数分かかります。

BIOS およびファームウェアの以前のバージョンへのロールバック

ロールバック ウィザードを使用して、以前の BIOS および ファームウェアのバージョンにロールバックすることができます。

重要

BIOS またはファームウェアのアップデートを 1 回のみ行った場合、ロールバック機能で、工場出荷時の BIOS またはファームウェアイメージに戻すオプションを選択できます。BIOS またはファームウェアを 2 回以上アップデートした場合は、工場出荷時のイメージが上書きされているため、戻すことはできません。

ロールバックウィザードの起動

プラットフォームのロールバック ウィザードを起動するには、次の手順を行います。

- 1 システムを起動し、Dell ロゴが表示されてから **10 秒以内**に **<F10>** キーを押します。USC-LCE が起動します。
- 2 左ペインで、**プラットフォームアップデート** をクリックします。
- 3 右ペインで、**プラットフォームアップデートの開始** をクリックします。**プラットフォームのロールバック** 画面には、使用可能なロールバックコンポーネントのリストが表示されます。

ロールバックの選択および適用

ロールバックを選択および適用するには、次の手順を行います。

- 1 **プラットフォームのロールバック** ページで、必要なロールバックイメージを選択します。
- 2 **適用** をクリックします。
アップデート処理が完了すると、システムは再起動します。複数のアップデートを適用する場合、システムがアップデート間で直接 USC-LCE に再起動してアップデートを継続することがあります。

関連項目

- [バージョンの比較](#)
- [Trusted Platform Module 設定に影響を及ぼすデバイスのアップデート](#)
- [RAID コントローラファームウェアのアップデート](#)

バージョンの比較

アップデートおよびロールバックのバージョンを現在 システムにインストールされているバージョンと比較するには、**現在** フィールドと **利用可能** フィールドのバージョンを比較します。

- **コンポーネント** — 使用可能なアップデートが表示されます。適用する各アップデートのチェックボックスを選択します。
- **現在** — 現在システムにインストールされているコンポーネントのバージョンが表示されます。
- **利用可能** — 使用可能なアップデートのバージョンを表示します。

RAID コントローラファームウェアのアップデート

RAID コントローラファームウェアをアップデートするには、次の手順を行います。

- 1 **ホーム** ページの左ペインで、**プラットフォームアップデート** をクリックします。
- 2 リポジトリオプションを選択し、**次へ** をクリックします。
コンポーネントと、現在および使用可能なファームウェアアップデートが表示されます。
- 3 ストレージカードを選択し、**適用** をクリックします。
アップデートプロセスが開始し、ファームウェアアップデートが完了します。

Trusted Platform Module 設定に影響を及ぼすデバイスのアップデート

システムで BitLocker 保護が有効になっている場合、一部のコンポーネントをアップデートすると、次のシステム起動時にリカバリパスワードの入力、またはリカバリキーが含まれる USB フラッシュドライブの挿入が要求されます。この状況は、Trusted Platform Module (TPM) セキュリティ設定が **起動前測定でオン** になっている場合にのみ発生します。TPM の設定方法については、support.dell.com/manuals で『BIOS ユーザーガイド』を参照してください。

TPM セキュリティが **起動前測定でオン** に設定されていることを USC - LCE が検知すると、特定のアップデートに対してリカバリパスワードまたはリカバリキーが含まれた USB フラッシュドライブが必要になるという警告メッセージが表示されます。また、警告メッセージには、BitLocker に影響しているコンポーネントも表示されます。

これらのコンポーネントをアップデートしないか、ロールバックするかを選択できます。その場合、**アップデートの選択** ページに移動し、該当するコンポーネントのチェックボックスをオフにします。

ハードウェア診断ユーティリティのアップデート

Dell Update Packages (DUP) または **プラットフォームアップデート** ウィザードを使用して、**ハードウェアの診断** ユーティリティをアップデートできます。

表 4-2 ハードウェア診断ユーティリティのアップデート

USC の場合	USC-LCE の場合
support.dell.com から必要な Dell Update Package (DUP) をダウンロードした上で、インストールされているオペレーティングシステムで実行可能なファイルとして DUP を実行します。	プラットフォームアップデート ウィザードを使用して、アップデートを行います。 または support.dell.com から必要な Dell Update Package (DUP) をダウンロードした上で、インストールされているオペレーティングシステムで実行可能なファイルとして DUP を実行します。

関連項目

- [ハードウェアの診断](#)
- [プラットフォームのアップデート](#)

ハードウェア診断の実行

ハードウェア診断を実行するには、次の手順を行います。

- 1 ハードウェア診断 ユーティリティを開始するには、次の手順を行います。
 - a USC または USC-LCE の左ペインで、**ハードウェア診断** をクリックします。
 - b 右ペインで、**ハードウェア診断の実行** をクリックします。診断ユーティリティが起動したら、画面の説明に従います。
- 2 ハードウェアの診断ユーティリティを終了するには、システムを再起動して **<F10>** を押し、USC または USC-LCE を再度開きます。

テストが終了すると、診断テストの結果が画面に表示されます。テスト結果で報告された問題を解決するには、解決方法を support.dell.com で検索してください。

関連項目

[ハードウェアの診断](#)


オペレーティングシステムのインストール

必要条件

- 光学 DVD ドライブが接続されていること。
- ハードディスクドライブが接続されていること。PERC コントローラでは、仮想ディスク作成用に、1 つ以上の物理ディスクが使用できる状態になっている必要があります。

ワークフロー

オペレーティングシステムをインストールするには、次の手順を行います。

- 1 **USC/USC-LCE** を起動するには、システムを起動して、Dell のロゴが表示されてから 10 秒以内に **<F10>** を押します。
- 2 左ペインで、**OS 展開** をクリックします。
- 3 右ペインで、**OS 展開** をクリックして、次のいずれかを選択します。
 - **直接オペレーティングシステムの展開に進む** を選択して **次へ** をクリックします。
 - オプション：システムに RAID コントローラがある場合は、**先に RAID を設定** した後で、**次へ** をクリックします。詳細については、[オプションの RAID 設定の使用](#) を参照してください。
- 4 **USC** — ドライバのソースを選択します。詳細については、[オペレーティングシステムのドライバのソースロケーションの選択 \(USC のみ\)](#) を参照してください。
- 5 リストからオペレーティングシステムを選択して、オペレーティングシステムのメディアを挿入し、残りの作業を行います。詳細については、[オペレーティングシステムの選択](#) を参照してください。
 **メモ**：UEFI ブートモードをサポートするオペレーティングシステムを選択すると、ブートモードは オプション BIOS または UEFI から選択できます。
- 6 システムを再起動します。詳細については、[システムの再起動](#) を参照してください。

関連項目

- [RHEL 4.8 オペレーティングシステム用のドライバのインストール](#)
- [オペレーティングシステムインストール後のシナリオ](#)
 - [Windows 起動可能システムパーティションの C ドライブへの割り当て](#)
 - [SAS7 \(H200\) コントローラを使用した Red Hat Enterprise Linux 4.8 のシステムへのインストール](#)

オペレーティングシステムのドライバのソースロケーションの選択 (USC のみ)

USC の場合、オペレーティングシステムのドライバを[オンラインリポジトリ](#)または[ローカルドライブ](#) (USB、ネットワーク共有、DVD) からダウンロードします。

オンラインリポジトリ

オンラインリポジトリからドライバをダウンロードするには、次の手順を行います。

- 1 [オンラインリポジトリ](#)を選択します。
- 2 [FTP リポジトリ](#)を選択します。
- 3 次のいずれかの方法で、ドライバをダウンロードします。
 - [Dell FTP サーバー](#)
 - [ローカルに設定されたオンラインレポジトリ](#)
 - [プロキシサーバーの設定](#)
- 4 ドライバをオンラインリポジトリからローカルに保存するには、[ローカルに保存](#) を選択します。
- 5 [ローカルに保存](#) ドロップダウンメニューから、システムドライバを保存する [USB ドライブ](#)を選択します。
必ず、USB デバイスを [USB ドライブ](#)に接続してください。
- 6 [次へ](#) をクリックします。

関連項目

[ダウンロード方法の選択](#)

ローカルに設定されたオンラインレポジトリ

ローカルに設定されたオンラインレポジトリからドライバをダウンロードするには、**アドレス** フィールドで、ドライバがあるサーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。

関連項目

- [ローカル FTP サーバーの設定](#)
- [FTP 認証](#)

ローカルドライブ

ドライバを USB デバイスまたは [Dell Lifecycle Controller OS Driver Packs DVD](#) からダウンロードするには、**ローカルドライブ** を選択して **次へ** をクリックします。



メモ : USC は内部 SATA 光学ドライブと USB 光学ドライブをサポートしており、USC - LCE は内蔵 SATA 光学ドライブ、USB 光学ドライブ、および仮想メディアデバイスをサポートしています。インストールメディアが破損している場合や読み取れない場合、メディアの存在を USC と USC-LCE が検出できない可能性があります。この場合、利用可能なメディアが無いことを示すエラーメッセージが表示されます。**USC - LCE** : 仮想メディアは iDRAC を介してサポートされます。iDRAC を介した仮想メディア設定方法の詳細については、お使いのシステムの iDRAC デバイスの『iDRAC ユーザーズガイド』を参照してください。

関連項目

[ローカル USB デバイスの設定](#)

オプションの RAID 設定の使用

システムに RAID コントローラがある場合、仮想ディスクをブートデバイスとして設定できます。

オペレーティングシステム展開ウィザードを使用した RAID の設定

重要

- USC では、**OS 展開** ウィザード からのみ、**RAID 設定** ウィザードを利用できます。
- USC-LCE では、**ハードウェアの設定** タブ? **設定ウィザード**? **RAID 設定** の順で選択して、RAID 設定ページから RAID を設定できます。



メモ：ESX 3.5 および Citrix オペレーティングシステムは、シリーズ 7 のコントローラをサポートしていません。

OS 展開ウィザードを使用して RAID コントローラを設定するには、次の手順を行います。

- 1 **ホーム** ページの左ペインで、**OS 展開** をクリックします。
- 2 **今すぐ RAID を設定する** を選択します。このオプションを選択すると **RAID 構成** ウィザードが起動され、シリーズ 6 および 7 コントローラ等の設定に使用可能なストレージコントローラが表示されません。
- 3 ストレージコントローラを選択します。
RAID 設定のオプションが表示されます。
- 4 RAID 設定を完了し、**終了** をクリックします。
RAID 設定がディスクに適用され、USC または USC-LCE は **OS 展開** ウィザードに戻ります。

RAID の設定のバイパス

直接オペレーティングシステムの展開に進む を選択して **次へ** をクリックします。このオプションを選択すると **OS 展開** ウィザードが起動し、オペレーティングシステムが BIOS ユーティリティで指定されたデフォルトのブートデバイスにインストールされます。

関連項目

- [オペレーティングシステムの選択](#)
- [オペレーティングシステムのインストール](#)


オペレーティングシステムの選択

使用可能なオペレーティングシステムの中から、希望のオペレーティングシステムを選択することができます。次のいずれかの手順を行います。

- リストにある使用可能なオペレーティングシステムを選択する
- オペレーティングシステムをカスタムで選択
- リストにない使用可能なオペレーティングシステムを選択する


リストにある使用可能なオペレーティングシステムを選択する

次の手順で、リストにある使用可能なオペレーティングシステムをインストールします。

- 1 リストから、必要なオペレーティングシステムを選択して、**次へ** をクリックします。
- 2 UEFI 機能のあるオペレーティングシステムを選択すると、USC-LCE に **UEFI** または **BIOS** の 2 つのインストールモードが表示されます。いずれか 1 つのオプションを選択し、**次へ** をクリックします。
- 3 画面の説明に従ってオペレーティングシステムの標準インストールメディアを挿入し、**次へ** をクリックします。USC または USC-LCE がメディアを検証します。
 **メモ**：USC または USC-LCE が OEMDRV ディレクトリを経由してオペレーティングシステムにドライバを提供します。
- 4 標準オペレーティングシステムのインストールメディアが検証されたら、インストールを続行します。そうでない場合、正しいメディアを挿入して **次へ** をクリックします。

オペレーティングシステムをカスタムで選択



オペレーティングシステムをカスタムでインストールするには、次の手順を行います。

- 1 リストから、必要なオペレーティングシステムを選択して、**次へ** をクリックします。
ドライバが解凍され、オペレーティングシステムのインストールメディアを挿入するプロンプトが USC または USC-LCE によって表示されます。
- 2 要件を満たす、カスタムインストールするすべてのシステムコンポーネントの入ったオペレーティングシステムのメディアを挿入して、**次へ** をクリックします。
 **メモ**：USC または USC-LCE が OEMDRV ディレクトリを経由してカスタムオペレーティングシステムにドライバを提供します。

- 3 検証チェックに失敗すると、エラーメッセージ、選択されたメディアはオペレーティングシステム < 選択されたオペレーティングシステム名 > の標準メディア証明書に一致しませんというメッセージが表示されます。**はい** をクリックして継続するか、**いいえ** をクリックして別のメディアを挿入して再試行します。

リストにない使用可能なオペレーティングシステムを選択する

次の手順で、リストにない使用可能なオペレーティングシステムをインストールします。

- 1 **その他のオペレーティングシステム** を選択して、**次へ** をクリックします。
ドライバは解凍されません。したがって、必要なオペレーティングシステムのドライバを使用できる状態にしてください。
- 2 要件を満たす、すべてのシステムコンポーネントの入ったオペレーティングシステムのインストールメディアを挿入して、**次へ** をクリックします。
 **メモ**：USC または USC-LCE は、OEMDRV ディレクトリに解凍されたドライバをオペレーティングシステムに提供しません。
- 3 **次へ** をクリックして続行します。
 **メモ**：USC および USC-LCE では、メディアの検証を行いません。

ドライバの解凍およびインストール

表 4-3 オペレーティングシステム別のドライバの解凍およびインストール

オペレーティングシステム	解凍方法
Microsoft Windows オペレーティングシステム	ドライバは OEMDRV という名前の内部 USB に解凍されます。
Red Hat Enterprise Linux 4.8	ドライバは、 /oemdrv/*.*rpm の OEMDRV に解凍されます。インストールの完了後に解凍されたドライバを手動でインストールします。

関連項目

- [ドライバの解凍](#)
- [システムの再起動](#)


RHEL 4.8 オペレーティングシステム用のドライバのインストール

ドライバをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 OEMDRV とラベル付けされたオペレーティングシステムドライバを含む USB デバイスをマウントします。次のコマンドを使用してマウントします。

```
mkdir OEMDRV
```

```
mount /dev/sdc1 /mnt/OEMDRV
```

 **メモ**：OEMDRV ドライブ上のオペレーティングシステムドライバのパス

/oemdrv/*.rpm です。

- 2 これらのドライバをインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
rpm -Uvh *.rpm
```

システムの再起動

終了 をクリックしてシステムを再起動し、オペレーティングシステムのインストールを続けます。再起動すると、システムは OS インストールメディアから起動します。

△ **注意：Microsoft Windows Server 2003 のインストール開始中に、インストーラは USC および USC-LCE 一時ストレージデバイスの OEMDRV を自動検出し、場合によってはデフォルトのドライブ文字 C を割り当てます。ハードディスク上に新しい Windows のブータブルシステムパーティションを作成すると、パーティションが C 以外のドライブ文字に割り当てられます。これは、標準的な Windows インストーラの動作です。C ドライブに新しいパーティションを割り当てると、Windows 起動可能システムパーティションの C ドライブへの割り当てを参照してください。**

再起動後のシナリオ

表 4-4 に、再起動後のシナリオとユーザーの操作および、影響度を示します。

表 4-4 再起動後のシナリオおよびユーザーの操作

シナリオ	ユーザーの操作と影響度
USC または USC-LCE で、オペレーティングシステムのインストールメディアを起動する前に、いずれかのキーを押すようプロンプトメッセージが表示される。	いずれかのキーを押します。押さないと、システムはオペレーティングシステムのインストール用メディアからではなく、ハードディスクから起動します。
オペレーティングシステムのインストールが中断され、インストールが完了する前にシステムが再起動する。	USC または USC-LCE で、いずれかのキーを押してオペレーティングシステムのインストールメディアから起動するよう、プロンプトメッセージが表示されません。
オペレーティングシステムのインストールをキャンセルしたい。	<F10> キーを押します。 メモ： インストールプロセス中または再起動中に <F10> キーを押すと、オペレーティングシステム展開 ウィザードが提供したドライバが削除されます。
以降 18 時間、オペレーティングシステム環境で DUP を実行しても、USC または USC-LCE をアップデートできない。	USC および USC-LCE では、オペレーティングシステムのインストール後 18 時間はアップデートを行えません。

オペレーティングシステムインストール後のシナリオ


オペレーティングシステムのインストール後、Microsoft Windows Server 2003 および Red Hat Enterprise Linux 4.8 オペレーティングシステムに対して、USC または USC-LCE で次のタスクを完了させます。

- [Windows 起動可能システムパーティションの C ドライブへの割り当て](#)
- [SAS7 \(H200\) コントローラを使用した Red Hat Enterprise Linux 4.8 のシステムへのインストール](#)


Windows 起動可能システムパーティションの C ドライブへの割り当て

USC または USC-LCE を介した Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールが完了した後、サーバーが再起動し、テキストモード部分のインストールが開始されます。

Microsoft Windows を確実に C ドライブにインストールするには、次の手順を行います。

 **メモ**：Windows Server 2003 のセットアップ画面に、システムで使用可能な既存ドライブのパーティションと未使用の領域の一覧が表示されません。

- 1 ハードディスクのパーティションを作成するには、未使用の領域を選択して **<c>** を押します。画面の指示に従います。

 **メモ**：パーティションは C ドライブとして列挙されない場合があります。

- 2 パーティションを削除するには、新しく作成したパーティションを選択して、**<d>** を押します。画面の指示に従います。
- 3 プライマリハードディスクのパーティションを作成するには、未使用の領域を再度選択して **<c>** を押します。画面の指示に従います。

Microsoft Windows が C ドライブにインストールされます。

詳細については、support.microsoft.com/kb/896536 を参照してください。

 **メモ**：この時点でパーティションは C ドライブとして列挙されます。

SAS7 (H200) コントローラを使用した Red Hat Enterprise Linux 4.8 のシステムへのインストール

Red Hat Enterprise Linux 4.8 のインストールは、次の手順で行います。

- 1 ドライブイメージファイル (***.img** または ***.dd**) を USB ドライブにコピーします。ドライバディスクのプロンプトが表示されたら、ドライブイメージファイルの場所を指定します。
- 2 **OS 展開** ページで、**Red Hat Enterprise Linux 4.8** を選択します。
- 3 USC がオペレーティングシステムのインストーラ CD/DVD から再起動したら、次のコマンドを入力します。> linux dd
- 4 プロンプトが表示されたら、ドライバアップデートディスク (DUD) を挿入し、USB ドライブの場所を指定して、**<Enter>** を押します。
- 5 画面の指示に従って、インストール作業を完了します。

システムコントロールパネルへのアクセスの制御

システムコントロールパネルへのアクセスを制御するには、次の手順を行います。

- 1 USC/USC-LCE の **ホーム** ページから、**ハードウェア構成** を選択します。
- 2 右ペインで、**設定ウィザード** を選択します。
- 3 **物理セキュリティ設定** をクリックします。
- 4 システムコントロールパネルアクセス を次のいずれかのオプションに設定します。
 - Disabled
 - 表示のみ
 - 表示と変更
- 5 変更を適用するには、**完了** をクリックします。
設定ウィザード に戻るには、**戻る** をクリックするか、**キャンセル** をクリックして終了します。

システムコントロールパネルへのアクセスオプション

USC の物理セキュリティ設定により、システム管理者は、システムコントロールパネルのインタフェースへのアクセスを制限することができます。次のオプションがあります。

- **無効** — 管理コントローラによって表示される情報を除き、情報へのアクセスおよび制御はできません。また、処置も指定できません。
- **表示のみ** — システムコントロールパネルのインタフェースを使用して、データ画面を移動し、情報を取得できます。
- **表示および変更** — システムコントロールパネルのインタフェースを使用して、情報の取得および変更ができます。

システム日時設定

システムの日時の設定は、次の手順で行います。

- 1 USC/USC-LCE の **ホーム** ページから、**ハードウェア構成** を選択します。
- 2 右ペインで、**設定ウィザード** を選択します。
- 3 **システム日時設定** をクリックします。
USC - LCE に表示されるデフォルトのシステム日時は、システム BIOS が報告する日時です。
- 4 必要に応じて、**システムの日付** と **時刻** (HH:MM:SS AM/PM) の値を変更します。
- 5 変更を適用するには、**完了** をクリックします。
- 6 **設定ウィザード** に戻るには、**戻る** をクリックするか、**キャンセル** をクリックして終了します。

iDRAC の設定

LAN、共通 IP 設定、IPv4、IPv6、仮想メディア、LAN ユーザー設定など、システムに適用可能な iDRAC パラメータを設定するには、**iDRAC 設定** ウィザードを使用します。

iDRAC パラメータの設定は、次の手順で行います。

- 1 **ホームページ**の左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 右ペインで、**設定ウィザード** をクリックします。
- 3 **iDRAC 設定** をクリックして、次のパラメータを設定します。
 - **LAN の設定**

- [詳細 LAN 設定](#)
- [共通の IP 設定](#)
- [IPv4 設定](#)
- [IPv6 設定](#)
- [仮想メディアの設定](#)
- [LAN ユーザー設定](#)
- [サマリおよび確定](#)

LAN の設定

表示と設定は、次の手順で行います。

- 1 iDRAC 設定 で、**LAN の設定** を選択します。
- 2 iDRAC LAN、IPMI Over LAN、MAC アドレス、および NIC の選択 について詳細を入力します。

表 4-5 LAN 設定属性

属性	説明	値
iDRAC LAN	iDRAC LAN を有効にすると、残りのコントロールがアクティブになります。iDRAC LAN を無効にすると、残りの制御も無効になります。	有効または無効に設定
IPMI オーバー LAN	iDRAC ローカルエリアネットワーク (LAN) チャンネル上で IPMI (Intelligent Platform Management Interface) コマンドを有効または無効にします。	有効または無効に設定
MAC アドレス	ネットワークの各ノードを固有に識別するメディアアクセスコントロール (MAC) アドレスを表示します (読み取り専用)。	有効または無効に設定
NIC の選択	NIC モードを表示または編集	有効または無効に設定

NIC モード

NIC は、次の各モードで有効にできます。

- 専用
- 共有とフェールオーバー
- フェールオーバー付きで共有 (LOM 2)
- フェールオーバー付きで共有 (すべての LOM)

専用

このオプションを選択すると、リモートアクセスに Dell リモートアクセスコントローラ (DRAC) 上の専用ネットワークインタフェースを使用できます。DRAC インタフェースは、ホストオペレーティングシステムと共有されず、管理トラフィックを別の物理ネットワークにルーティングするため、アプリケーショントラフィックから分離できます。



メモ: このオプションは、システムに iDRAC6 Enterprise コントローラが搭載されている場合にのみ使用できます。

共有とフェールオーバー

このオプションは、リモートアクセスを有効にして、ホストオペレーティングシステムとのネットワークインタフェース共有を可能にします。リモートアクセスデバイスのネットワークインタフェースは、ホストオペレーティングシステムに NIC チームを設定すると完全に機能します。リモートアクセスデバイスは、マザーボードの LOM 1 と LOM 2 で LAN を介してデータを受信しますが、データの送信には LOM 1 のみを使用します。LOM 1 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータ伝送のすべてを LOM 2 にフェールオーバーします。リモートアクセスデバイスは、データ伝送に LOM 2 を引き続き使用します。LOM 2 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータ伝送のすべてを再度 LOM 1 にフェールオーバーします。

フェールオーバー付きで共有 (LOM 2)

このオプションは、リモートアクセスを有効にして、ホストオペレーティングシステムとのネットワークインタフェース共有を可能にします。リモートアクセスデバイスのネットワークインタフェースは、ホストオペレーティングシステムに NIC チームを設定すると、完全に機能します。リモートアクセスデバイスは、マザーボードの LOM 1 と LOM 2 で LAN を介してデータを受信しますが、データの送信には LOM 2 のみを使用します。LOM 2 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータ伝送のすべてを LOM 1 にフェールオーバーします。リモートアクセスデバイスはデータ伝送に LOM 1 を引き続き使用します。LOM 1 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータ伝送のすべてを再度 LOM 2 にフェールオーバーします。

片方の LOM が故障した後で復元した場合は、**iDRAC ハードウェア構成** ウィザードを使用して NIC の選択を変更すると、手動で元の LOM 設定に戻すことができます。

フェールオーバー付きで共有 (すべての LOM)

このオプションは、リモートアクセスを有効にして、ホストオペレーティングシステムとのネットワークインタフェース共有を可能にします。リモートアクセスデバイスのネットワークインタフェースは、ホストオペレーティングシステムに NIC チームを設定すると、完全に機能します。リモートアクセスデバイスは、NIC 1、NIC 2、NIC 3、NIC 4 を介してデータを受信しますが、データの送信は NIC 1 からのみ行います。NIC 1 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータを NIC 2 へ送信します。NIC 2 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータを NIC 3 へ送信します。NIC 3 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータを NIC 4 へ送信します。NIC 4 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはすべての送受信を再び NIC 1 にフェールオーバーします。ただし、これは最初の NIC 1 の障害が修復されている場合に限りです。



メモ：ファイルオーバーで共有 - すべての LOM オプションは iDRAC6 Enterprise コントローラでは使用できない場合があります。

詳細 LAN 設定

LAN の詳細設定は、次の手順で行います。

- 1 **iDRAC 設定** で、**LAN の詳細設定** を選択します。
- 2 **VLAN、VLAN ID、VLAN 優先度、オートネゴシエート、LAN スピード、LAN デュプレックス** などの追加の属性を設定します。
- 3 設定を保存し、**LAN 設定** メニューに戻るには、**OK** をクリックします。

表 4-6 LAN 詳細設定の属性

属性	説明	値
VLAN	VLAN モードの動作およびパラメータです。VLAN を有効にした場合、一致する VLAN ID のトラフィックのみが許可されます。無効にした場合、VLAN ID と VLAN 優先度は利用できなくなり、それらのパラメータに設定された値は無視されます。	有効または無効に設定
VLAN ID	VLAN ID の値を設定します。有効値は IEEE 801.11g 仕様で定義されます。	1 ~ 4094
VLAN 優先度	VLAN ID の優先度の値を設定します。有効値は IEEE 801.11g 仕様で定義されます。	0 ~ 7
自動ネゴシエーション	オートネゴシエートをオンにすると、最も近いルーターまたはハブと通信して、iDRAC が デュプレックスモード とネットワーク速度 の値を自動設定するかどうかを判別します。オートネゴシエートをオフにすると、手動で デュプレックスモード および ネットワークスピード の値を設定する必要があります。	ON または OFF
LAN 速度	ネットワーク速度を使用環境の速度に合わせて設定します。オートネゴシエーションが オン の場合、このオプションは使用できません。	10 MB または 100MB
LAN デュプレックス	ユーザーのネットワーク環境に合わせて、デュプレックスモードを二重モードに設定します。オートネゴシエートが On の場合、このオプションは使用できません。	全二重または半二重

共通の IP 設定

共通の IP 設定は、次の手順で行います。

- 1 **iDRAC 設定** で、**IP 設定** を選択します。
- 2 iDRAC 名を登録します。
- 3 DHCP からドメイン名を設定します。
- 4 ドメイン名を指定します。
- 5 ホスト名の文字列を指定します。
- 6 **OK** をクリックして設定を保存し、**iDRAC 設定** メニューに戻ります。

この設定手順で設定された情報は、iDRAC がデフォルトにリセットされた場合、または iDRAC ファームウェアがアップデートされた場合に削除されます。

表 4-7 共通の IP 設定属性

属性	説明	値
iDRAC 名の登録	ドメインネームシステム (DNS) で、iDRAC 名を登録します。	はいまたはいいえ
iDRAC 名	DNS の登録に使用する iDRAC 名を表示または編集します。名前の文字列には、最大 63 個の印刷可能な ASCII 文字を使用できます。 iDRAC 名の登録 が いいえ に設定されている場合は、名前の文字列を編集できます。	有効または無効に設定
DHCP からのドメイン名	iDRAC が、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) サーバーからドメイン名を取得します。 いいえ に設定した場合は、手動でドメイン名を入力する必要があります。	はいまたはいいえ
ドメイン名	DHCP から取得していない場合は、使用されている iDRAC 名を表示または編集します。 DHCP からのドメイン名 を いいえ に設定している場合は、ドメイン名を指定できます。	有効または無効に設定
ホスト名文字列	iDRAC に関連するホスト名を指定または編集します。 ホスト名 の文字列には、最大 62 の印刷可能な ASCII 文字を使用できます。	有効または無効に設定

IPv4 設定

IPv4 設定は、次の手順で行います。

- 1 **IP 設定** で **IPv4** を選択して、プロトコルを有効または無効にします。
- 2 **RMCP+ 暗号化キー** を設定します。
- 3 **IP Address Source** (IP アドレスソース) を指定します。
- 4 **Alternate IP Address** (代替 IP アドレス) のユーザー設定を指定します。
- 5 **次へ** をクリックして続行します。

属性	説明	値
IPv4	iDRAC NIC IPv4 のプロトコルサポートです。IPv4 を無効にすると、残りの制御も無効になります。	有効または無効に設定
RMCP+ 暗号化キー	RMCP+ 暗号化キーの設定です (ブランクスペースを入れしないでください)。デフォルト設定は、すべてゼロ (0) です。	0 ~ 40 の 16 進法の文字列
IP アドレスソース	iDRAC NIC が DHCP サーバーから IPv4 アドレスを取得する機能です。 IP Address Source (IP アドレスソース) を無効にすると、 Ethernet IP アドレス および、 ユーザー定義によるその他の制御が無効になります。	有効または無効に設定

ユーザー定義による制御を指定するには、**Ethernet IP Address** (Ethernet IP アドレス) の設定をクリックし、次の各項目に適切な値を入力します。

- **Ethernet IP Address** (Ethernet IP アドレス) — 最大値は、255.255.255.255 です。
- **Subnet Mask** (サブネットマスク) — 最大値は、255.255.255.255 です。
- **Default Gateway** (デフォルトゲートウェイ) — 最大値は、255.255.255.255 です。
- **Get DNS Servers from DHCP** (DHCP から DNS サーバーを取得) — Yes/No

- **Yes** に設定すると、iDRAC NIC が DNS サーバーの情報を DHCP サーバーから取得して、**DNS サーバー 1** および **DNS サーバー 2** の制御を無効にします。
- **いいえ** に設定した場合、iDRAC NIC は DHCP サーバーから DNS サーバー情報を取得しないため、**DNS サーバー 1** フィールドと **DNS サーバー 2** フィールドに手動で入力する必要があります。
- DNS サーバー 1（プライマリ DNS サーバー） — 最大値：255.255.255.255
- DNS サーバー 2（セカンダリ DNS サーバー） — 最大値は、255.255.255.255 です。

IPv6 設定

IPv6 設定は、次の手順で行います。

- 1 **IP 設定** で **IPv6** を選択して、プロトコルを有効または無効にします。
- 2 **IP アドレスソース** を指定します。
- 3 代替イーサネット IP アドレス のユーザー設定を指定します。
- 4 次へ をクリックして設定内容を保存して、次の手順に進みます。

属性	説明	値
IPv6	iDRAC NIC IPv6 のプロトコルサポートです。IPv6 を無効にすると、残りの制御も無効になります。	有効または無効に設定
IP アドレスソース	iDRAC NIC が DHCP サーバーから IPv6 アドレスを取得する機能です。 IP アドレスソース を無効にすると、 Ethernet IP アドレス、プレフィックス長 と デフォルトゲートウェイ の制御も無効になります。	有効または無効に設定

ユーザー定義による制御を指定するには、**Ethernet IP アドレス** の設定をクリックし、次の各項目に適切な値を入力します。

- **Ethernet IP Address**（Ethernet IP アドレス） — 最大値は、FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF です。

- マルチキャスト (ff00:/8) とループバック (::1/128) の値は、Ethernet IP アドレスや、この項で説明されるその他のアドレス関連フィールドの有効なアドレスではありません。
- サポートされている IPv6 アドレスの形式
 - **X:X:X:X:X:X:X:X** — この形式では、**X** は 8 個の 16 ビットのアドレスで構成される 16 進数値です。各フィールドの先行ゼロは省くことができますが、各フィールドに少なくとも 1 個の数値を含める必要があります。
 - **::** (2 個のコロン) — この形式を使用すると、連続するゼロの文字列フィールドを優先形式で表すことができます。「**::**」は、アドレス内で一度しか使用できません。また、アドレスを指定しない場合には、**0:0:0:0:0:0:0:0** と表すことができます。
 - **x:x:x:x:x:d.d.d.d** — この形式は IPv4 ノードと IPv6 ノードが混在する環境で便利な場合があります。x は、上位 6 個の 16 ビット アドレスから成る 16 進数の値を表します。d は、下位 4 個の 8 ビット アドレスから成る 10 進数の値 (IPv4 の標準形式) を表します。
- **プレフィクス長** — 最大値は 128 です。T
- **Ethernet IP アドレス** — 最大値は、FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF です。
- **DHCP から DNS サーバー** を取得 — はい/いいえ
 - **はい** に設定すると、iDRAC NIC が DNS サーバーの情報を DHCP サーバーから取得して、**DNS サーバー 1** および **DNS サーバー 2** の制御を無効にします。
 - **いいえ** に設定した場合、iDRAC NIC は DHCP サーバーから DNS サーバー情報を取得しないため、**DNS サーバー 1** フィールドと **DNS サーバー 2** フィールドに手動で入力する必要があります。
- **DNS サーバー 1** (プライマリ DNS サーバー) — 最大値は、FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF です。
- **DNS サーバー 2** (セカンダリ DNS サーバー) — 最大値は、FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF です。

仮想メディアの設定

仮想メディアは、システムに iDRAC 6 Enterprise が含まれている場合にのみ利用可能です。仮想メディアの設定 ウィザードを使用して、使用可能な仮想メディアデバイスの制御モードを設定します。サポートされる仮想メディアデバイスの詳細については、support.dell.com/manuals の『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

設定は次の手順で行います。

- 1 **iDRAC 設定** で **仮想メディアの設定** を選択します。
- 2 次のいずれかの制御モードを選択します。
 - 連結
 - 分離
 - 自動連結
- 3 **次へ** をクリックして続行します。

仮想メディアの接続モード

仮想メディアの設定に使用可能な接続モードは、次のモードです。

表 4-8 VM 接続モード

モード	説明
連結	現在の操作環境において、仮想メディアデバイスを使用することができます。仮想メディアを使用すると、フロッピーイメージやドライブがローカルシステム上に存在（連結または接続）しているかのように、管理下システムのコンソールからお使いのシステムのフロッピーイメージ、フロッピードライブ、CD/DVD ドライブなどを使用できるようになります。
分離	仮想メディアデバイスにアクセスすることはできません。
自動連結	仮想メディアデバイスは、ユーザーが物理的にメディアを接続するたびに、サーバーに自動でマップされます。

LAN ユーザー設定

これを使用して、アカウントアクセス、アカウント関連の属性、スマートカード認証等の LAN ユーザー設定を行います。これには、次の操作を行います。

- 1 **iDRAC 設定** で、**LAN ユーザーの設定** を選択します。
- 2 ユーザー設定を設定します。
- 3 **次へ** をクリックして続行します。

表 4-9 LAN ユーザー設定

パラメータ	説明	値
自動検出	プロビジョニングサーバーを自動検出します	有効または無効に設定
プロビジョニングサーバーアドレスの条件	プロビジョニングサーバーのアドレスを入力します	IPV4、IPV6、ホスト名、のいずれか
アカウントアクセス	アカウントアクセスを無効にすると、 LAN ユーザー設定 の他のフィールドもすべて無効になります	有効または無効に設定
アカウントユーザー名	iDRAC ユーザー名の変更を有効にします	印刷可能な 最大 16 文字の ASCII 文字
パスワード	システム管理者は、iDRAC ユーザーのパスワード（暗号化）を指定または編集できます	最大 20 文字
パスワードの確認	iDRAC ユーザーのパスワードを再入力して、確定します	最大 20 文字
アカウント権限	IPMI LAN チャンネルでのユーザーの最大権限をユーザーグループに割り当てます	管理者、オペレータ、アクセスなし、のいずれか
スマートカード認証	iDRAC ログイン用のスマートカード認証有効にした場合、iDRAC にアクセスできるようにスマートカードを取り付ける必要があります。	有効、無効または RACADM で有効

プロビジョニングサーバーアドレスの条件

- コンマ区切りの IP アドレス、ホスト名、ポート番号のリスト。
- 完全修飾ホスト名を使用できます。
- IPv4 アドレス – ホスト名と同時に指定する場合は、「(」で始まり、「)」で終わります。
- 各 IP アドレスまたはホスト名には、オプションで「:」とポート番号を指定できます。
- 有効な文字列の例 - hostname, hostname.domain.com

アカウント権限

表 4-10 アカウント権限

権限	管理者	オペレータ	ユーザー	アクセスなし
iDRAC へのログイン	はい	はい	はい	-
iDRAC の設定	はい	はい	-	-
ユーザーの設定	はい	はい	-	-
ログのクリア	はい	-	-	-
サーバー制御コマンドの実行	はい	はい	-	-
コンソールリダイレクトへのアクセス	はい	はい	-	-
仮想メディアへのアクセス	はい	はい	-	-
テスト警告	はい	はい	-	-
診断コマンドの実行	はい	はい	-	-

スマートカード認証

- **有効** — スマートカードログインを有効にすると、SSM、Telnet、シリアル、リモート RACADM、IPMI オーバー LAN などのコマンドライン帯域外インタフェースがすべて無効になります。
- **無効** — グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) からの以降のログイン時に、通常ログインページが表示されます。SSH、Telnet、シリアル、RACADM などのコマンドライン帯域外インタフェースがすべてデフォルト状態に設定されます。

- **RACADM で有効** — RACADM でスマートカードログインを有効にすると、SSM、Telnet、シリアル、リモート RACADM、IPMI オーバー LAN などのコマンドライン帯域外インタフェースがすべて無効になります。ただし、RACADM アクセスは許可されます。

サマリおよび確定

変更内容のサマリを表示して適用するには、次の手順を行います。

- 1 **iDRAC 設定** から **サマリ** を選択します。
変更した内容のサマリを見ます。
- 2 **確認** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックしてすべての変更を取り消して、iDRAC の設定を終了します。
変更を適用すると、変更が保存される間、お待ちください というメッセージが表示されます。処理が完了すると、**確認** 画面が表示され、変更の適用に成功したか、変更されなかったか、失敗したかが示されます。
- 3 **完了** をクリックし、設定を保存してメインウィザード画面に戻ります。

ハードウェア RAID を使用した RAID の設定

システムに、サポートされている 1 つまたは複数の PERC RAID コントローラ (PERC 6.1 以上のファームウェア) または、SAS RAID コントローラが搭載されている場合は、**RAID 設定** ウィザードを使用して、仮想ディスクを 起動 デバイスとして 設定できます。

重要

- USC は、RAID 設定用のストレージコントローラをコンソール上で 3 つのみ表示することができます。
- システム上に内蔵のストレージコントローラカードが存在する場合、その他の外付けカードは設定できません。内蔵カードが存在しない場合は、外付けカードを設定できます。

ワークフロー


RAID 設定 ウィザードを起動するには


- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 右ペインで、**設定ウィザード** をクリックします。
- 3 **RAID 設定** をクリックしてウィザードを起動して、次のタスクを実行します。
 - a [シリーズ 7 コントローラでのセキュアな仮想ディスクの作成](#)
 - b [RAID コントローラの選択](#)
 - c [外部設定が検出されました](#)
 - d [簡易設定ウィザードまたは詳細設定ウィザード](#)
 - e [基本設定の選択](#)
 - f [簡易設定ウィザードのみ - ホットスペアの割り当て](#)
 - g [簡易設定ウィザードのみ - 概要の確認](#)
 - h [詳細設定ウィザードのみ - 物理ディスクの選択](#)
 - i [詳細ウィザードのみ - 追加設定](#)
 - j [詳細設定ウィザードのみ - 概要の確認](#)

現在の設定の表示

現在の設定を表示 ページに、システムに接続しているサポートされる RAID コントローラで既に設定されている仮想ディスクの属性が表示されます。2 つのオプションが用意されています。

- 変更を加えずに、既存の仮想ディスクを受け入れる。このオプションを選択する場合は、**戻る** をクリックします。オペレーティングシステムを既存の仮想ディスクにインストールする場合は、仮想ディスクのサイズと RAID のレベルが適切であることを確認してください。
- **RAID 設定** ウィザードを使用して、既存のすべての仮想ディスクを削除し、新しい起動デバイスとして使用する新規の仮想ディスクを 1 つ作成します。このオプションを選択する場合は、**次へ** をクリックします。

 **メモ**：RAID 0 はデータの冗長性を提供しません。その他の RAID レベルでは、データの冗長性が提供されるため、ディスクが故障してもデータを再構築できる場合があります。


 **メモ**：USC および USC-LCE を使用して作成できる仮想ディスクの数は、1 つのみです。複数の仮想ディスクを作成するには、オプション ROM を使用してください。オプション ROM にアクセスするには、CTRL+R を押します。

RAID コントローラの選択

RAID コントローラの選択 画面に、システムに接続している対応 RAID コントローラがすべて表示されます。仮想ディスクを作成する RAID コントローラを選択し、**次へ** をクリックします。

外部設定が検出されました

外部設定が検出されました 画面は、選択した RAID コントローラに外部設定がある場合にのみ表示されます。

 **メモ**：RAID コントローラ S100 または S300 を選択している場合、外部ディスクは Non-RAID ディスクとして USC-LCE に表示されます。仮想ディスクを作成するには、これを初期化してください。

外部設定とは、システムに導入されていても、連結している RAID コントローラでまだ管理されていない RAID 設定が含まれた一連の物理ディスクです。別のシステムの RAID コントローラから現在のシステムの RAID コントローラに物理ディスクが移された場合に、外部設定が含まれている可能性があります。

外部設定を無視すると 外部設定をクリアする の 2 つのオプションから選択できます。

- 保持したいデータが外部設定に含まれている場合は、**外部設定を無視する** を選択します。このオプションを選択すると、外部設定が含まれているディスク領域を新しい 仮想ディスクで使用することはできません。
- 外部設定が含まれている物理ディスクデータをすべて削除するには、**外部設定をクリアする** を選択します。このオプションを選択すると、外部設定が含まれているディスク領域が解放され、新しい仮想ディスクで使用できるようになります。


選択した後、**次へ** をクリックします。

簡易設定ウィザードまたは詳細設定ウィザード

簡易設定ウィザードまたは **詳細設定 ウィザード** を使用して仮想ディスクを作成します。


簡易設定ウィザードを選択する

簡易設定ウィザード では、RAID レベルのみを選択できます。次に、**簡易設定ウィザード** は、選択した RAID レベルを実装するユーザー用の仮想ディスク設定を選択します。ホットスワップを割り当てるオプションもあります。推奨設定を受け入れて簡単に仮想ディスクを作成するには、**簡易設定ウィザード** を選択します。コントローラによってはウィザード を使用できない場合があります。

 **メモ**：利用できる物理ディスクが、SAS（シリアル接続 SCSI）および SATA（シリアル ATA）の両方のプロトコルを使用している場合は、**詳細設定ウィザード** の使用をお勧めします。

詳細設定ウィザードを選択する

詳細設定ウィザード では、仮想ディスクのディスクプールの作成時にどのプロトコルを使用するかを指定できます。ディスクプールとは、1 台または複数台の仮想ディスクを作成できる RAID コントローラに接続しているディスクの論理グループです。RAID レベルの選択に加え、**詳細設定ウィザード** では、物理ディスクの選択、スパンの設定、キャッシュポリシー、その他の仮想ディスク属性の設定など、さらなる柔軟性を提供します。仮想ディスクのすべての設定を指定する場合は、**詳細設定ウィザード** を選択してください。

 **メモ**：**詳細設定ウィザード** を使用する場合は、RAID およびハードウェア構成に関する十分な知識があることが推奨されます。

選択した後、**次へ** をクリックします。

基本設定の選択

RAID レベル ドロップダウンメニューから仮想ディスクの RAID タイプを選択します。

- **RAID-0** - データが物理ディスク間でストライプされます。RAID 0 では冗長データは保持されません。RAID-0 仮想ディスク内の物理ディスクが故障した場合にデータを再構築する方法はありません。RAID 0 では、読み取りおよび書き込みパフォーマンスが向上しますが、データの冗長性はありません。
- **RAID-1** - データが物理ディスク間でミラーリング（複製）されます。物理ディスクが 1 台故障した場合、もう一方のミラーのデータを使用してデータを再構築できます。RAID 1 では、読み取りパフォーマンスとデータの冗長性は優れていますが、書き込みパフォーマンスは普通です。
- **RAID-5** - 物理ディスク間でデータをストライプし、パリティ情報を使用してデータの冗長性を維持します。物理ディスクが 1 台故障した場合に、パリティ情報を使用してデータを再構築できます。RAID 5 は、読み取りパフォーマンスとデータの冗長性が優れていますが、書き込みパフォーマンスは遅くなります。
- **RAID-6** - 物理ディスク間でデータをストライプし、2 組のパリティ情報を使用してデータの冗長性を強化します。物理ディスクが 1 台または 2 台故障した場合に、パリティ情報を使用してデータを再構築できます。RAID 6 は、データの冗長性と読み取りパフォーマンスが優れていますが、書き込みパフォーマンスは遅くなります。
- **RAID-10** - 物理ディスクのミラーリングとデータストライピングの組み合わせです。物理ディスクが 1 台故障した場合には、ミラーリングされたデータを使用してデータを再構築できます。RAID 10 は、読み取りおよび書き込みパフォーマンスと、データの冗長性が優れています。
- **RAID 50** - 単一アレイで複数の RAID 5 セットを使用するデュアルレベルアレイ アレイ全体のデータを損失せずに、各 RAID 5 で 1 台の物理ディスクが故障する可能性があります。RAID 50 は書き込みパフォーマンスは優れていますが、物理ディスクが故障して再構築が行われるとパフォーマンスが低下し、データやプログラムへのアクセスが遅くなり、アレイ上の転送速度が影響されます。

- RAID 60** - RAID 0 のストレートブロックレベルストライピングを RAID 6 の分散ダブルパリティと組み合わせています。RAID 60 を使用するには、8 個以上の物理ディスクがシステムに必要です。RAID 60 は RAID 6 を基盤としているので、各 RAID 6 セットの 2 台の物理ディスクがデータを損失することなく故障する場合があります。1 台の物理ディスクが 1 つの RAID 6 セット上で再構築している間の故障はデータ損失につながりません。データ損失が発生するには全物理ディスクの半数以上が故障する必要があるため、RAID 60 は耐障害性が向上しています。
- ボリューム** — RAID レベルや冗長性を持たない単体のディスクドライブまたはセグメント。

簡易設定ウィザードを使用している場合は、「[簡易設定ウィザードのみ - ホットスペアの割り当て](#)」へ進みます。

詳細設定ウィザードを使用している場合は、[次へ](#) をクリックして、「[詳細設定ウィザードのみ - 物理ディスクの選択](#)」へ進みます。

RAID レベルごとの最小ディスク要件

表 4-11 RAID レベルおよびディスク数

RAID Level	最小ディスク数
0	1
1	2
5	3
6	4
10	4
50	6
60	8

簡易設定ウィザードのみ - ホットスペアの割り当て

ホットスペアとは、冗長仮想ディスクからデータを再構築するために使用できる未使用のバックアップ物理ディスクのことです。ホットスペアは、冗長 RAID レベルでのみ使用できます。ホットスペアには、物理ディスクのサイズ要件もあります。ホットスペアには、仮想ディスクに含まれている最小物理


ディスクと同サイズまたはそれ以上の容量が必要となります。RAID レベルと使用可能な物理ディスクがこれらの要件を満たさないと、ホットスペアは割り当てられません。

仮想ディスクにホットスペアを割り当てるには

- 1 **ホットスペアを割り当てる** チェックボックスをオンにするか、オフのままにします。
- 2 **次へ** をクリックして、次の項に進みます。

簡易設定ウィザードのみ - 概要の確認

仮想ディスクを作成する前に、選択した仮想ディスクの属性を確認します。

 **注意：終了** ボタンをクリックすると、保存しておく外部設定を除いて既存の仮想ディスクがすべて削除されます。削除された仮想ディスクのデータはすべて消失します。

表示されている属性を使用して仮想ディスクを作成するには、**完了** をクリックします。

または

選択項目を確認または変更するために、前の画面に戻るには、**戻る** をクリックします。変更せずに、ウィザードを終了するには、**キャンセル** をクリックします。仮想ディスクの属性をさらにコントロールするには、**キャンセル** をクリックし、**詳細設定ウィザード** を使用して仮想ディスクを作成します。

詳細設定ウィザードのみ - 物理ディスクの選択

物理ディスクの選択 画面で、仮想ディスクに使用する物理ディスクを選択します。仮想ディスクに必要な物理ディスクの数は RAID レベルによって異なります。RAID レベルに必要な物理ディスクの最小数と最大数が画面に表示されます。

- **プロトコル** ドロップダウンメニューからディスクプールで使用するプロトコル（**SAS (シリアル接続 SCSI)** または **SATA (シリアル ATA)**）を選択します。SAS ドライブは高性能で、SATA ドライブはコスト効率の良いソリューションです。ディスクプールとは、1 台または複数台の仮想ディスクを作成できる物理ディスクの論理グループです。プロトコルとは、RAID の実装に使用するテクノロジーの種類です。
- **メディアの種類** ドロップダウンメニューからディスクプールで使用するメディアの種類（**ハードディスクドライブ (HDD)** または **ソリッドステートディスク (SSD)**）を選択します。HDD では、データストレージに従来方式の回転磁気メディアが使用されているのに対し、SSD ではフラッシュメモリが実装されています。

- **スパン長の選択** ドロップダウンメニューからスパン長を選択します。スパン長とは、各スパンに含まれる物理ディスクの数を指します。スパン長は RAID 10、RAID 50、および RAID 60 のみに適用されます。**スパン長の選択** ドロップダウンメニューは、RAID 10、RAID-50、または RAID 60 を選択した場合にのみアクティブになります。
- 画面の下部にあるチェックボックスを使用して物理ディスクを選択します。選択する物理ディスクは、RAID レベルとスパン長の要件を満たしている必要があります。すべての物理ディスクを選択するには、**すべて選択** をクリックします。

選択した後、**次へ** をクリックします。

詳細ウィザードのみ - 追加設定

キャッシュポリシーおよびストライプ要素のサイズを指定するには、**追加設定** 画面を使用します。仮想ディスクにホットスペアを割り当てることもできます。


- **サイズ** ボックスで仮想ディスクのサイズを指定します。
- **ストライプ要素のサイズ** ドロップダウンメニューからストライプ要素のサイズを選択します。ストライプ要素のサイズは、ストライプされている各物理ディスク上のストライプが使用するディスク容量です。**ストライプ要素のサイズ** ドロップダウンメニューには、画面に最初に表示されたオプションより多くのオプションが含まれることがあります。すべてのオプションを表示するには、上下の矢印を使用します。
- **読み取りポリシー** ドロップダウンメニューから読み取りポリシーを選択します。
 - **先読み** - コントローラは、データの検索時に仮想ディスクのシーケンシャルセクタを読み取ります。データが論理ドライブのシーケンシャルセクタに書き込まれている場合は、先読みポリシーによってシステムのパフォーマンスが向上する可能性があります。
 - **先読みなし** - コントローラは先読みポリシーを使用しません。データがシーケンシャルセクタではなくランダムに書き込まれている場合は、先読みなしポリシーによってシステムのパフォーマンスが向上する可能性があります。

- **適応先読み** - 最新の読み取り要求でディスクのシーケンシャルセクタにアクセスした場合にのみ、先読みポリシーが使用されます。最新の読み取り要求でディスクのランダムセクタにアクセスした場合は、先読みなしポリシーが使用されます。
- **書き込みポリシー** ドロップダウンメニューから書き込みポリシーを選択します。
 - **ライトスルー** - データがディスクに書き込まれた後で、コントローラから書き込み要求の完了信号が送信されます。書き込み完了ポリシーでは、データがディスクに書き込まれた後でのみ使用可能と見なされるので、書き戻しポリシーより優れたデータセキュリティを提供します。
 - **ライトバック** - データがキャッシュに入り、ディスクに書き込まれる前に、コントローラから書き込み要求の完了信号が送信されます。書き戻しポリシーでは、書き込みが高速に行われますが、システムエラーによってデータがディスクに書き込まれなくなるので、データの安全性は劣ります。
 - **強制ライトバック** - コントローラが動作するバッテリーを保有しているかに関わらず、ライトキャッシュが有効になります。コントローラにバッテリーがない場合は、停電時にデータが失われる可能性があります。
- 仮想ディスクにホットスペアを割り当てるには、**ホットスペアディスクを割り当てる** チェックボックスをオンにします。ホットスペアとは、冗長仮想ディスクからデータを再構築するために使用できる未使用のバックアップ物理ディスクのことです。
- ホットスペアとして使用する物理ディスクを **ホットスペアディスク** ドロップダウンメニューから選択します。ホットスペアは、冗長 RAID レベルでのみ使用できます。ホットスペアには、物理ディスクのサイズ要件もあります。ホットスペアには、仮想ディスクに含まれる最小物理ディスク以上の容量が必要となります。RAID レベルと使用可能な物理ディスクがこれらの要件を満たしていない場合は、**ホットスペアディスク** チェックボックスが無効になっています。

選択した後、**次へ** をクリックします。

詳細設定ウィザードのみ - 概要の確認

概要 画面に、選択したオプションに基づいて仮想ディスクの属性が表示されます。

 **注意：終了 ボタンをクリックすると、保存しておく外部設定を除いて既存の仮想ディスクがすべて削除されます。削除された仮想ディスクのデータはすべて消失します。**

表示されている属性を使用して仮想ディスクを作成するには、**完了** をクリックします。


または

選択項目を確認または変更するために、前の画面に戻るには、**戻る** をクリックします。変更せずに、ウィザードを終了するには、**キャンセル** をクリックします。

ソフトウェア RAID を使用した RAID の設定

この機能を使用して、マザーボード上の PERC S100 コントローラまたは PERC S300 RAID コントローラカードがシステム内に存在する場合の、RAID 設定を行います。ソフトウェア RAID オプションが選択されている場合、USC-LCE には物理ディスクが非 RAID ディスクまたは RAID 可能 ディスクとして表示されません。

- 非 RAID ディスク — RAID プロパティを持たない単一のディスク。RAID レベルを適用するには、初期化が必要です。
- RAID 可能ディスク — 初期化済みで、RAID を適用できます。

 **メモ：**ソフトウェア RAID コントローラ (S100 および S300) を使用して、Linux および VMware オペレーティングシステムをインストールすることはできません。

必要条件

- S100 コントローラ
 - オプション ROM で、SATA コントローラのオプションを RAID モードに変更します。
 - 最新の BIOS バージョンがインストールされている必要があります。異なるシステムの BIOS バージョンの詳細については、『USC-LCE Readme』を参照してください。

 **メモ：**古い BIOS がある場合、RAID の設定はオプション ROM 経由でのみ行えます。

- S300 — S300 コントローラの最新のファームウェアのバージョンがインストールされている必要があります。

ワークフロー

ソフトウェア RAID を設定するには、次の作業を行います。

- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 右ペインで、**設定ウィザード** をクリックします。
- 3 **RAID 設定** をクリックしてウィザードを起動し、次のタスクを実行します。
 - a **RAID コントローラの選択**を参照してください。
 - b コントローラに取り付けられている非 RAID 物理ディスクを選択して、**次へ** をクリックして初期化します。



メモ：非 RAID ディスクが取り付けられていない場合は、この手順を使用できません。



注意：初期化中、非 RAID ディスク上のすべてのデータが消去されます。

- c **詳細設定ウィザードを選択する**
- d **基本設定の選択**
- e **詳細設定ウィザードのみ - 物理ディスクの選択**
- f **詳細ウィザードのみ - 追加設定**
- g **詳細設定ウィザードのみ - 概要の確認**

シリーズ7 コントローラでのセキュアな仮想ディスクの作成



メモ：コントローラはローカルキーで暗号化する必要があります。

シリーズ7 コントローラでセキュアな仮想ディスクを作成するには、以下の手順を実行してください。


- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 **RAID 構成** を選択し、**次へ** をクリックします。

コントローラごとに存在する仮想ディスク数と、仮想ディスクがセキュアかどうかの情報が表示されます。
- 3 コントローラを選択し、**次へ** をクリックします。

- 4 **詳細設定ウィザード** を選択し、**次へ** をクリックします。
- 5 必要な RAID レベルを選択し、**次へ** をクリックします。
- 6 暗号化機能 ドロップダウンメニューから **自己暗号化** を選択します。自己暗号化ディスク (SED) が表示されます。
- 7 必要な物理ディスクを選択し、**次へ** をクリックします。
- 8 **追加設定** ページで、**セキュアな仮想ディスク** ボックスを選択し、**次へ** をクリックします。
概要 ページに仮想ディスクの属性情報が表示されます。
- 9 **完了** をクリックします。
- 10 仮想ディスクの作成を確認するには、最初の 2 つの手順を繰り返します。

vFlash SD カードの設定

この機能を使用して、vFlash SD カードの有効化 / 無効化、状態およびプロパティのチェック、vFlash SD カードの初期化を行ないます。Dell vFlash SD カードは、部品交換機能を有効にします。USC-LCE は、1 GB、2 GB、8 GB の vFlash SD カードをサポートしています。

 **メモ**：スロットに SD カードが挿入されていない場合、vFlash SD カードの下のオプションはグレー表示になります。

vFlash SD カードおよびインストール手順の詳細については、support.jp.dell.com/manuals の『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

vFlash SD カードの設定 を使用して、以下を実行します。

- vFlash SD カードの有効化 / 無効化
- Flash SD カードのプロパティの確認
 - Name
 - 状態


表 4-12 状態ステータスおよび応答動作

状態ステータス	応答動作
OK	None (なし)
警告	初期化して再試行

表 4-12 状態ステータスおよび応答動作

状態ステータス	応答動作
重要	取り外し、リセット、再試行 初期化して再試行


- サイズ - vFlash SD カードの総容量を示します。
- 利用可能な領域 - vFlash SD カード上で新しいパーティションを作成するために利用可能な容量を示します。
- タイプ - カードのタイプ、SD（セキュアデジタル）または MMC（マルチメディアカード）を示します。
- 書き込み保護 - vFlash SD カードの書き込み保護ラッチがオン/オフいずれにセットされているかを示します。
- vFlash の初期化 - この操作で vFlash SD カード上の既存のパーティションが削除されます。

 **メモ:** Dell 製以外の SD カードで使用可能なメモリ領域は、256 MB のみです。

VFlash を有効または無効にする


有効 にセットすると、vFlash SD カードは仮想ドライブとして設定されて、BIOS 起動順序に表示され、vFlash SD カードからの起動が可能になります。**無効** に設定した場合は、仮想フラッシュにアクセスできません。

vFlash SD カードを有効または無効にするには、次の手順を実行します。

 **メモ:** vFlash SD カードの書き込み保護ラッチを、**Off** 位置にセットするようにしてください。

- 1 **vFlash Media** ドロップダウンメニューから、**有効** または **無効** を選択します。
- 2 変更を適用するには、**完了** をクリックします。

vFlash の初期化

 **メモ:** vFlash SD カードを無効にした後は、**vFlash の初期化** オプションは使用できません。

vFlash 初期化 をクリックして、vFlash SD カード内のすべてのデータを削除します。

HII 詳細設定

HII 詳細設定 を使用して詳細設定を変更するには、次の手順を行います。

- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** を選択します。
- 2 右ペインで、**HII 詳細設定** をクリックします。
- 3 設定するデバイスを選択します。

構成設定の変更に応じて、次のメッセージが表示される場合があります。再起動しなければ保存と適用ができない設定が 1 つまたは複数あります。今すぐ再起動しますか？ **いいえ** を選択すると、設定をさらに変更するか、オペレーティングシステム展開などの他のタスクを実行できます。すべての変更内容は次のシステムの起動時に適用されます。

USC - LCE ハードウェア構成では、ヒューマンインタフェースインフラストラクチャ (HII) を介して、他のデバイスの設定も可能です。HII は、デバイス設定の表示と設定用の UEFI 標準仕様です。過去に異なるプレブート設定ユーティリティを使用していた複数のデバイスに対しても、一つのユーティリティで設定できます。また、HII にはローカライゼーションも用意されています。つまり、BIOS の **<F2>** セットアップのように、以前は英語表記のみであったユーティリティも、各国語にローカライズされたバージョンを使用できる場合があります。

HII 詳細設定 ウィザードには、**BIOS**、**NIC**、および **CNA** でサポートされているデバイスのセットアップが含まれています。

- **BIOS** セットアップは、現在のセットアップユーティリティ (システムのスタートアップ時に **<F2>** キーを押してアクセス可能) とよく似ています。ただし、**HII** はシステム起動時にユーティリティのサブセットにしかアクセスできません。
- **NIC** セットアップは、さまざまな **NIC** 属性を反映しており、一部はコントローラオプションの読み取り専用メモリ (ROM) で表示されます。しかし、これらの多くの属性は、オペレーティングシステムのユーティリティでしか変更できませんでした。

システム構成によっては、HII 設定仕様をサポートしているその他のデバイスの種類も詳細設定に表示される場合があります。**HII 詳細設定** ウィザードを使用すると、次のアイテムを設定できます。

- システム BIOS 設定
- Intel PRO/1000 XT Server Adapter
- Intel Pro/1000 PT Dual Port Server Adapter
- Intel Gigabit VT Quad Port Server Adapter
- Intel 10 Gigabit AF DA Dual Port Server Adapter

- Intel Gigabit AT Quad Port Server Adapter
- Intel 10 Gigabit XF SR Dual Port Server Adapter
- Broadcom (Dual Port) 10G KX4
- Broadcom (Quad Port) GBE
- Intel (Quad Port) GBE
- Broadcom (Dual Port) 10G KX4
- Broadcom (Dual Port) 10G SFP+
- Broadcom (Quad Port) 10/100/1000 BASET
- Intel (Quad Port) 10/100/1000 BASET
- Intel (Dual Port) 10/100/1000 BASET
- Broadcom NetXtreme Gigabit EthernetBroadcom NetXtreme Gigabit Ethernet
- Broadcom 5709C NetXtreme II GigE
- Broadcom 5709C NetXtreme II GigE
- Broadcom 57710 NetXtreme II 10GigE
- Intel Ethernet X520 10 GBE Dual Port KX4-KR Mezz
- Broadcom 57712 (デュアルポート) 10GigE

重要


- 1 度に行うことができる DUP は 1 つだけです。
- Integrated Broadcom NIC は、BIOS と、デバイス自体に格納された設定の両方によって制御されます。その結果、内蔵 NIC の HII の **起動プロトコル** フィールドは効果がありません。この設定は、**内蔵デバイス** 画面の BIOS によって制御されます。内蔵 NIC を iSCSI または PXE ブートモードに設定するには、**システム BIOS 設定** を選択してから **内蔵デバイス** を選択します。この画面では、内蔵 NIC の一覧が表示されるので、適切な値を選択してください。起動機能なしの場合は **有効**、PXE 起動に NIC を使用する場合は **PXE で有効**、iSCSI ターゲットからの起動に NIC を使用する場合は **iSCSI で有効** を選択します。

セキュアでない仮想ディスクの暗号化


必要条件

- 選択したコントローラにセキュリティ機能があること。
- セキュリティ機能のある仮想ディスクが、コントローラに取り付けられていること。
- コントローラがローカルキー暗号化モードになっていること。

ワークフロー

 **メモ**：同じ物理ディスクに作成されたすべての仮想ディスクは、自動で暗号化されます。

セキュアでない仮想ディスクの暗号化は、次の手順で行います。

- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 右ペインで、**設定ウィザード** をクリックし、**キーの暗号化** をクリックします。
- 3 暗号化されたコントローラを選択して、**次へ** をクリックします。
 **メモ**：選択したコントローラに適用された暗号化モード（ローカルキー暗号化）は、変更されません。
- 4 **セキュアでない仮想ディスクの暗号化** を選択して、**次へ** をクリックします。
- 5 暗号化を有効にするには、セキュアでない仮想ディスクを選択して、**完了** をクリックします。

RAID コントローラでのローカルキーの適用



必要条件

- コントローラにセキュリティ機能があること。

ワークフロー

RAID コントローラでローカルキーを適用するには、次の手順を行います。

- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 右ペインで、**設定ウィザード** をクリックし、**キーの暗号化** をクリックします。

- ローカルキーを適用するコントローラを選択して、**次へ** をクリックします。
- ローカルキー暗号化の設定** をクリックして、**次へ** をクリックします。
 **メモ**：暗号化をサポートしていないコントローラでは、いくつかのコントローラオプションが無効になっています。
- 入力したパスフレーズに関連付けられる **暗号化キー識別子** を入力します。暗号化キー識別子は、パスフレーズのヒントです。USC-LCE でこのヒントが表示されたらパスフレーズを入力する必要があります。
- 新しいパスフレーズテキストボックスで、パスフレーズを入力します。
 **メモ**：コントローラはパスフレーズを使ってディスクのデータを暗号化します。有効なパスフレーズは、8～32 文字です。大文字と小文字、数字、記号を組み合わせで作成し、スペースは使用できません。
- パスフレーズの確認** テキストボックスで、パスフレーズを再入力して **完了** をクリックします。

コントローラを新しいキーで Rekey する


新しいローカルキーでコントローラをリキーするには、次の手順を行います。

- 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 右ペインで、**設定ウィザード** をクリックし、**キーの暗号化** をクリックします。
- ローカルキーを適用するコントローラを選択して、**次へ** をクリックします。
- 既存のパスフレーズ** テキストボックスで、表示されている暗号化キー識別子に該当する既存のパスフレーズを入力します。
- 暗号化キー識別子** テキストボックスに、新しい識別子を入力します。暗号化キー識別子は、パスフレーズのヒントです。USC-LCE でこのヒントが表示されたらパスフレーズを入力する必要があります。
- 新しいパスフレーズ** テキストボックスで、新しい暗号化キー識別子に関連付けられるパスフレーズを入力します。

暗号化を削除してデータを消去する


暗号化を削除して仮想ディスク上のデータを削除するには、次の手順を行います。


- 1 左ペインで、**ハードウェア構成** をクリックします。
- 2 右ペインで、**設定ウィザード** をクリックし、**キーの暗号化** をクリックします。
- 3 適用されているキーを削除する必要があるコントローラを選択して、**次へ** を選択します。
- 4 右ペインで、**暗号化を削除してデータを消去する** を選択して、**次へ** をクリックします。
- 5 **暗号化キーおよびセキュアなすべての仮想ディスクを削除する** を選択して、**完了** をクリックします。

 **注意**：既存の暗号化、仮想ディスクおよび、すべてのデータが完全に削除されます。

iDRAC6 Express カードへのアップグレード


この項では、iDRAC6 Express カードのインストール、iDRAC6 Express カードのシステム間の移動、および iDRAC6 Express カードのアンインストールについて説明します。このハードウェアアップグレードでは、USC から USC - LCE へのアップグレードも行われます。

 **メモ**：これは、Dell システムシリーズ y21x ~ y51x のみに適用されます。

 **メモ**：古いバージョンの iDRAC ファームウェアを使用している場合、アクセスできないリンクや機能があります。最新版の iDRAC ファームウェアがインストールされていることを確認してください。

iDRAC6 Express カードの取り付け

iDRAC6 Express カードの取り付けは、次の手順で行います。

- 1 取り付けた周辺機器を含むシステムの電源を切り、システムをコンセントから抜きます。
 **メモ**：システムの残留電力を放電するために電源 ボタン を 1 回押します。
- 2 iDRAC6 Express カードを iDRAC6 Express スロットに挿入します。iDRAC6 Express カードのインストールの詳細に関しては、システムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。

- 3 システムおよび周辺機器をそれぞれの電源に接続します。
iDRAC は自動的に起動します。iDRAC が完全に起動するまで 1 分間待ってから、システムの電源を入れてください。
- 4 システムの電源を入れ、**<F10>** を押して USC を起動します。
USC はシステムに取り付けた iDRAC6 Express カードを自動検出して、アップグレードプロセスを完了します。

インストールに成功したら、**Unified Server Configurator — Lifecycle Controller Enabled** を起動できます。

インストールに失敗した場合は、iDRAC をアップグレードする必要があります。詳細については、『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』を参照してください。iDRAC をアップグレードした後、上記の手順を繰り返します。

iDRAC6 Express カードの移動

iDRAC6 Express カードを別のシステムに移動した場合

- 新しいシステムではロールバック機能を使用できません。詳細については、[BIOS およびファームウェアの以前のバージョンへのロールバック](#)を参照してください。
- 実行保留中の USC-LCE タスクは、新しいシステムですべて削除されます。
- **プラットフォームアップデート** ウィザードを実行して、新しいシステム用の適切なドライバパックをダウンロードします。
- iDRAC6 Express カードを異なる Dell システムに移動すると、ドライバパック、ライフサイクルログ、ロールバック関連ファイルは削除されます。例えば、iDRAC6 Express カードを Dell PowerEdge R410 システムから Dell PowerEdge T410 システムに移動させた場合などです。



メモ：iDRAC6 Express カードを移動させる前に、ライフサイクルログを別の場所にエクスポートするようにしてください。

iDRAC6 Express カードの取り外し

iDRAC6 Express カードの取り外しは、次の手順で行います。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。システムの残留電力を放電するために電源 ボタン を 1 回押します。
- 2 iDRAC6 Express カードを iDRAC6 Express スロットから取り出します。iDRAC6 Express カードのインストールの詳細については、システムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。
- 3 システムおよび周辺機器をそれぞれの電源に接続します。
- 4 システムの電源を入れ、<F10> を押して USC を起動します。

ローカル FTP サーバーの設定

組織のユーザーがプライベートネットワークを使っており、外部のサイトつまり ftp.dell.com にアクセスできない場合は、ローカル設定の FTP サーバーからプラットフォームアップデートを提供できます。組織のユーザーは、ftp.dell.com からダウンロードする代わりに、ローカル FTP サーバーから Dell サーバーのアップデートやドライバにアクセスできます。プロキシサーバー経由で ftp.dell.com にアクセスできるユーザーには、ローカル FTP サーバーは不要です。ローカル FTP サーバーに最新のアップデートがあることを確認するため、頻繁に ftp.dell.com をチェックしてください。

ローカル FTP サーバーの要件

ローカル FTP サーバーを設定する場合には、次の要件が適用されます。

- ローカル FTP サーバーがデフォルトポート (21) を使用する。
- ローカル FTP サーバーからアップデートにアクセスする前にシステム上でネットワークカードを設定するには、**USC 設定** ウィザードを使用する必要があります。

Dell サーバーアップデート DVD からローカルの FTP サーバーへのリポジトリのコピー

リポジトリのコピーは、次の手順で行います。

- 1 support.jp.dell.com からお使いのシステムへ **Server Update Utility ISO** をダウンロードし、DVD に焼き付けます。




メモ：オペレーティングシステムのドライバパックをアップデートするには、**Dell Lifecycle Controller OS Driver Packs** DVD を使用します。

- 2 DVD のリポジトリフォルダをローカル FTP サーバー のルートディレクトリにコピーします。
- 3 このローカル FTP サーバーをプラットフォームアップデートに使用します。

Dell Repository Manager を使用したリポジトリの作成とローカル FTP サーバーへのコピー

リポジトリの作成およびコピーは、次の手順で行います。

- 1 **Dell Repository Manager** を使用して作成したリポジトリを FTP サーバーのルートディレクトリにコピーします。
 -  **メモ**：お使いのシステム用のリポジトリの作成についての詳細は、support.jp.dell.com/manuals で『Dell Repository Manager ユーザーガイド』を参照してください。
- 2 このローカル FTP サーバーをプラットフォームアップデートに使用します。

ローカル FTP サーバーにあるアップデートへのアクセス

組織のユーザー が USC および USC-LCE の **プラットフォームアップデート** を介して **OS 展開** ウィザードを使用する場合は、オンラインリポジトリを指定するためにローカル FTP サーバーの IP アドレスを知っている必要があります。

ユーザーがプロキシサーバー経由でローカル FTP サーバーにアクセスする場合は、プロキシサーバーに関する以下の情報が必要です。

- プロキシサーバーのホスト名または IP アドレス
- プロキシサーバーのポート番号
- プロキシサーバー上での認証に必要なユーザー名
- プロキシサーバー上での認証に必要なパスワード
- プロキシサーバーの種類
- プロキシサーバーを使用して FTP サーバーにアクセスし、アップデートをダウンロードするには、以下のように指定します。
 - **アドレス** — ローカル FTP サーバーの IP アドレスまたは **ftp.dell.com**
 - **ユーザー名** — FTP ロケーションにアクセスするためのユーザー名。
 - **パスワード** — この FTP ロケーションにアクセスするためのパスワード。

- **プロキシサーバー** — プロキシサーバーのサーバーホスト名または IP アドレス。
- **プロキシポート** — プロキシサーバーのポート番号。
- **プロキシタイプ** — プロキシサーバーの種類 HTTP と SOCKS 4 のプロキシタイプは USC でサポートされています。
- **プロキシユーザー名** — プロキシサーバーでの認証に必要なユーザー名。
- **プロキシパスワード** — プロキシサーバーでの認証に必要なパスワード。

ローカル USB デバイスの設定

ftp.dell.com などの外部サイトにアクセスできないプライベートネットワークのユーザーに、ローカルで設定された USB デバイスからアップデートを提供できます。

リポジトリとして使用する USB デバイスには 8 GB 以上の容量が必要です。プロキシサーバー経由で ftp.dell.com にアクセスできるユーザーに、USB デバイスは不要です。

最新のアップデートを取得するには、support.jp.dell.com から最新版の [Dell Server Updates ISO](#) をダウンロードしてください。



メモ：USC は内蔵 SATA 光学ドライブと USB 光学ドライブをサポートし、USC-LCE は内蔵 SATA 光学ドライブ、USB 光学ドライブおよび、仮想メディアデバイスをサポートします。インストールメディアが破損している場合や読み取れない場合、メディアの存在を USC と USC-LCE が検出できない可能性があります。この場合、利用可能なメディアが無いことを示すエラーメッセージが表示されます。

Dell サーバーアップデート DVD からローカルの USB デバイスへのリポジトリのコピー

リポジトリのコピーは、次の手順で行います。

- 1 support.dell.com からお使いのシステムへ [Server Update Utility ISO](#) をダウンロードし、DVD に焼き付けます。
- 2 DVD のリポジトリフォルダを USB デバイスのルートディレクトリにコピーします。
- 3 プラットフォームのアップデートには、この USB デバイス を使用します。

Dell Repository Manager を使用したリポジトリの作成と USB デバイスへのコピー

リポジトリの作成およびコピーは、次の手順で行います。

- 1 Dell Repository Manager を使用して作成したリポジトリを USB デバイスのルートディレクトリにコピーします。
- 2 プラットフォームのアップデートには、この USB デバイス を使用します。



メモ：お使いのシステム用のリポジトリの作成についての詳細は、support.jp.dell.com/manuals で『Dell Repository Manager ユーザーガイド』を参照してください。

部品交換設定

部品交換設定は、有効化されていると、新しい部品のファームウェアまたは設定、もしくはこれら両方を、以前の部品と同じレベルへ自動的にアップデートするものです。このアップデートは、部品の交換後にシステムを再起動すると、自動的に行われます。これはライセンスによって作動し、USC インタフェースまたはリモートから無効にすることができます。

必要条件

- 部品交換設定機能は、システムに Dell vFlash SD カードを使用している場合にのみ利用可能になります。
- **再起動時にシステムインベントリを収集** を有効にすることにより、システム起動時に USC-LCE が **部品ファームウェアアップデート** および **部品設定アップデート** を自動で開始するようにします。



メモ：部品ファームウェアアップデートと部品設定アップデートが無効になっていないことを確認します。

- **再起動時にシステムインベントリを収集** を無効にすると、電源投入後に手動で USC を起動せずに新しいコンポーネントを追加した場合、システムインベントリ情報のキャッシュが古くなる恐れがあります。手動モードでは、部品交換後の再起動中に <F10> を押す必要があります。
- 交換されたカード / 部品は、以前のコンポーネントと同じシリーズのものであるようにしてください。

サポートされているデバイス

次のデバイスの部品ファームウェアと設定をアップデートすることができます。



メモ：SAS カードと電源装置でサポートされているのは、部品ファームウェアのアップデートのみです。

- NIC (Broadcom)
- PERC、SAS、CERC シリーズ 6 および 7
- 電源装置

再起動時のシステムインベントリの収集

再起動時にシステムインベントリを収集する プロパティを有効にすると、システムを再起動するたびに、ハードウェアインベントリと部品交換の情報が検出され、前のシステムインベントリ情報と比較されます。これには、次の操作を行います。

- 1 左ペインで、**プラットフォームの復元** をクリックします。
- 2 **部品交換設定** をクリックします。
- 3 **再起動時にシステムインベントリを収集** ドロップダウンメニューから **有効** または **無効** をクリックします。

部品ファームウェアアップデート

部品ファームウェアアップデートドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。

- **無効** — 交換された部品でのファームウェアのアップデートは実行されません。
- **バージョンアップグレードのみ許可** - 新しい部品のファームウェアバージョンが既存の部品より古いバージョンの場合にのみ、交換部品のファームウェアアップデートが行われます。
- **交換部品のファームウェアを一致させる** - 新しい部品のファームウェアバージョンが元の部品と同じバージョンにアップデートされます。

部品設定のアップデート

部品ファームウェアアップデートドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。

- **無効** — 機能が無効になり、部品が交換されても現在の設定は適用されません。

- **常に適用** — 機能が有効になり、部品が交換されると現在の設定が適用されます。
- **ファームウェアが一致する場合のみ適用** — 機能が有効になり、現在のファームウェアが交換された部品のファームウェアに一致する場合にのみ、現在の設定が適用されます。



サーバープロファイルのバックアップ

必要条件

- サーバーに有効なサービスタグが付いている（7 文字）。
- vFlash SD カードが取り付けおよび初期化され、有効になっている。
- vFlash SD カードに 384 MB 以上の空き容量がある。
- バックアップ操作には iDRAC 仮想コンソール 1 台のみを使用する。

ワークフロー

サーバープロファイルのバックアップは、次の手順で行います。

- 1 左ペインで、**プラットフォームの復元** を選択します。
- 2 右ペインで、**サーバープロファイルのバックアップ** を選択します。
- 3 パスフレーズを入力せずにバックアップファイルを生成するには、**完了** をクリックします。
または、パスフレーズを使用して暗号化されたバックアップファイルを生成するには、次の詳細を入力して完了をクリックします。
- 4 **バックアップファイルのパスフレーズ** フィールドに、パスフレーズを入力します。例えば、Rt@#12tv と入力します。
 **メモ**：有効なパスフレーズは、8 ～ 32 文字です。大文字と小文字、数字、記号を組み合わせで作成し、スペースは使用できません。パスフレーズの入力はオプションで、ここでパスフレーズを使用した場合、復元時にもパスフレーズが必要になります。
- 5 **パスフレーズの確認** フィールドで、パスフレーズを再入力して **完了** をクリックします。
 **メモ**：サーバープロファイルのバックアップの状態は iDRAC RAC のログで確認します。プロファイルのバックアップ後、エクスポートされたすべてのエントリはライフサイクルログで確認します。ログの表示方法は、[ライフサイクルログ履歴の表示](#)を参照してください。

関連項目

[サーバープロファイルのバックアップ](#)

サーバープロファイルの USB デバイスまたはネットワーク共有へのエクスポート

必要条件

- vFlash SD カードに最新のバックアップイメージファイルがある。
- USB デバイスに 384 MB 以上の空き容量がある。
- ネットワーク共有にアクセス可能で、384 MB 以上の空き容量がある。
- バックアップ中に使用したのと同じ vFlash SD カードを使用する。

ワークフロー

サーバープロファイルを USB デバイスまたはネットワーク共有にエクスポートするには、次の手順を行います。

- 1 左ペインで、**プラットフォームの復元** を選択します。
- 2 右ペインで、**サーバープロファイルのエクスポート** を選択します。
- 3 **USB デバイス** または **ネットワーク共有** を選択して詳細を入力し、**完了** をクリックします。

USB デバイス

- **デバイスの選択** ドロップダウンメニューから、取り付けられている USB デバイスを選択します。
- **ファイルの場所** テキストボックスで、バックアップイメージファイルを選択したデバイスに保存すべきディレクトリまたはサブディレクトリのパスを入力します。デフォルトで、ディレクトリまたはサブディレクトリが提供されていない場合、ファイルはデバイスのルートに保存されています。

ネットワーク共有

CIFS

- 共有名 — ネットワークの共有名です。例えば、**yzyzxxx
xxx.xxx.xxx** または **yzyzDataServeryzServerBkp** と入力します。
- ドメインおよびユーザー名 — ネットワーク共有のドメインおよびユーザー名です。例えば、**login-name@myDomain** と入力します。ドメインがない場合、ユーザー名のみを入力します。
- パスワード — ネットワーク共有のログインパスワードです。
- ファイルの場所 — サブディレクトリのパスです。例えば、**2010yzAug** と入力します。デフォルトで、ファイルはルートディレクトリに保存されます。

NFS

- 共有名 — ネットワークの共有名です。例えば、**yzyzxxx
xxx.xxx.xxx** または **yzyzDataServeryzServerBkp** と入力します。
- ファイルの場所 — サブディレクトリのパスです。例えば、**2010\Aug** と入力します。デフォルトで、ファイルはルートディレクトリに保存されます。

関連項目

[サーバープロファイルのエクスポート](#)

vFlash SD カード、ネットワーク共有、USB デバイスからのサーバープロファイルのインポート

必要条件

- サーバーのサービスタグが、バックアップを行った際のものと同じ。
- Dell vFlash SD カードから復元を行う場合、このカードがインストール済みで、SRVCNF のラベルの付いたフォルダにバックアップイメージが入っている。このイメージは、復元を行うものと同じプラットフォームのイメージである必要があります。
- ネットワーク共有から復元を行う場合は、バックアップイメージファイルが保存されているネットワーク共有にアクセス可能であることを、確認してください。
- 復元操作には iDRAC 仮想コンソール 1 台のみを使用する。
- ライセンス済みの Dell vFlash SD カードがインストールされていること。

ワークフロー

vFlash SD カード、ネットワーク共有、USB デバイスからサーバープロファイルをインポートするには、次の手順を行います。

vFlash SD カード

- 1 左ペインで、**プラットフォームの復元** を選択します。
- 2 右ペインで、**サーバープロファイルのインポート** を選択します。
- 3 vFlash SD カードを選択して、**次へ** をクリックします。
- 4 **設定の保存** または **設定の削除** を選択します。
 - 設定の保存 — RAID レベル、仮想ディスクおよび、コントローラの属性を保存します。
 - 設定の削除 — RAID レベル、仮想ディスクおよび、コントローラの属性を削除します。
- 5 バックアップイメージファイルをパスフレーズでセキュリティ保護している場合、**バックアップファイルのパスフレーズ** テキストボックスに、バックアップで使用したパスフレーズを入力して、**完了** をクリックします。

ネットワーク共有

- 1 左ペインで、**プラットフォームの復元** を選択します。
- 2 右ペインで、**サーバープロファイルのインポート** を選択します。
- 3 ネットワーク共有を選択して **次へ** をクリックします。
- 4 **CIFS** または **NFS** を選択して詳細を入力し、**次へ** をクリックします。
- 5 **設定の保存** または **設定の削除** を選択します。
 - 設定の保存 — RAID レベル、仮想ディスクおよび、コントローラの属性を保存します。
 - 設定の削除 — RAID レベル、仮想ディスクおよび、コントローラの属性を削除します。
- 6 バックアップイメージファイルをパスフレーズでセキュリティ保護している場合、**バックアップファイルのパスフレーズ** テキストボックスに、バックアップで使用したパスフレーズを入力して、**完了** をクリックします。

USB デバイス

- 1 左ペインで、**プラットフォームの復元** を選択します。
- 2 右ペインで、**サーバープロファイルのインポート** を選択します。
- 3 **USB 構成** を選択し、**次へ** をクリックします。
- 4 **デバイスの選択** ドロップダウンメニューから、取り付けられている USB デバイスを選択します。
- 5 **ファイルの場所** テキストボックスで、バックアップイメージファイルを選択したデバイスに保存すべきディレクトリまたはサブディレクトリのパスを入力します。デフォルトで、ファイルはデバイスのルートの場合に保存されています。
- 6 **設定の保存** または **設定の削除** を選択します。
 - 設定の保存 — RAID レベル、仮想ディスクおよび、コントローラの属性を保存します。
 - 設定の削除 — RAID レベル、仮想ディスクおよび、コントローラの属性を削除します。
- 7 バックアップイメージファイルをパスフレーズでセキュリティ保護している場合、**バックアップファイルのパスフレーズ** テキストボックスに、バックアップで使用したパスフレーズを入力して、**完了** をクリックします。

インポート後のシナリオ

- 1 システムに電源を投入すると電源が切れます。オペレーティングシステムで起動すると、システムは正常なシャットダウンを実行しようとしています。シャットダウンできない場合、システムは 15 分後に強制終了します。
- 2 システムの電源を投入するとシステムサービスで起動して、サポートされているデバイス（BIOS、ストレージコントローラおよび、アドインした NIC カード）のファームウェアの復元タスクを実行します。
- 3 システムは再起動し、システムサービスでファームウェアの検証、サポートしているデバイス（BIOS、ストレージコントローラおよび、アドインした NIC カード）の設定の復元および、実行したすべてのタスクの最終的な検証を行います。
- 4 システムの電源がオフになり、iDRAC の設定およびファームウェアの復元を実行します。完了後、iDRAC はリセットされ、最大 10 分経過した後にシステムの電源が入ります。
- 5 システムに電源が入り、復元プロセスが完了します。ライフサイクルログで復元プロセスのエントリを確認してください。

関連項目

[サーバープロファイルのインポート](#)

マザーボード交換後のサーバープロファイルのインポート

必要条件

- 古いマザーボードでサーバーのバックアップを行っている。
- Dell vFlash SD カードから復元を行う場合、このカードがインストール済みで、SRVCNF のラベルの付いたフォルダにバックアップイメージが入っている。このイメージは、復元を行うものと同じプラットフォームのイメージである必要があります。
- ネットワーク共有から復元を行う場合は、バックアップイメージファイルが保存されているネットワーク共有にアクセス可能であることを、確認してください。

ワークフロー


マザーボード交換後、[vFlash SD カード](#)、[ネットワーク共有](#)または [USB デバイス](#)にある手順に従って、システム情報を復元します。

完了後の必要条件

- [インポート後のシナリオ](#) を参照してください。
- サービススタグが新しいマザーボードのバックアップファイルから復元されます。

ライフサイクルログ履歴の表示

この機能を使って、次を表示します。

- ファームウェアインベントリ
- ファームウェアのアップデート履歴
- アップデートおよび設定イベントのみ
-  **メモ**：設定変更の詳細は表示されません。
- ユーザーコメント

ライフサイクルログの表示中、異なるフィルタリングおよび並べ替えのオプションを使用します。

ライフサイクルログ履歴を表示、およびフィルタリングオプションを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 左ペインで、**ライフサイクルログ** をクリックします。
- 2 右ペインで、**ライフサイクルログの履歴の表示** をクリックします。
次のイベント情報を記載した表がページに表示されます。
 - 番号 — イベントのシリアルナンバー
 - カテゴリ — イベントが属するカテゴリ
 - 説明 — イベントの簡単な説明 例えば、Dell オペレーティングシステムドライバパック、v.6.4.0.14、X14 が検出された、などです。
 - タイムスタンプ — イベントの発生した時間
- 3 **カテゴリでフィルタ** 内にある次のオプションを使って、必要な情報を表示します。
 - **すべて** — ライフサイクルログ内にあるすべてのデータを表示します。

- **その他のイベント** — 選択したイベントにもとづいたデータを表示します。例えば、iDRAC、インベントリ、設定サービス、ジョブコントロール、リモートアップデート、オペレーティングシステムの展開、USC などがあります。

表中の上下矢印を使って、データを並べ替えます。

ライフサイクルログのエクスポート

この機能を使って、ライフサイクルログ情報を XML ファイルにエクスポートします。XML ファイルを、**USB デバイス** または **ネットワーク共有** に保存します。スキーマの詳細に関しては、[Lifecycle ログスキーマ](#) を参照してください。

必要条件

- ネットワーク共有を使用する場合は、正しいネットワーク設定を設定してください。詳細については、[USC 設定ウィザードの使用](#) を参照してください。
- エクスポートしたファイルを USB デバイスに保存する場合は、USB デバイスが管理対象ノードに接続されていることを確認します。
- エクスポートしたファイルをネットワーク共有で保存する場合は、正しいログイン権限のある共有フォルダを所有していることを確認します。

ワークフロー

ライフサイクルログをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 左ペインで、**ライフサイクルログ** をクリックします。
- 2 右ペインで、**ライフサイクルログのエクスポート** をクリックします。
- 3 **USB デバイス** または **ネットワーク共有** を選択します。

USB デバイス

インベントリログをローカル USB ドライブにエクスポートする場合は、**USB デバイス** を選択します。

- a **デバイスの選択** ドロップダウンメニューから正しいデバイスを選択し、フォルダへのパスを入力します。
パスが提供されない場合、ファイルはデバイスのルートの場所に保存されます。
- b **Finish** (完了) をクリックします。

ネットワーク共有

ネットワーク上の共有フォルダにファイルを保存したい場合は、**ネットワーク共有** を選択します。

ネットワーク共有を使用してアップデートするには、**CIFS** または **NFS** を選択し、次の詳細を入力します。

CIFS の場合


- **共有名** — ファイルを保存する必要がある共有フォルダへのパスを入力します。例えば、**zyzxxx.xxx.xx.xyzLifCyLog** と入力します。
- **ドメインおよびユーザー名** — ネットワーク共有のログオンに必要な正しいドメインおよびユーザー名を入力します。例えば、**login-name@myDomain** と入力し、ドメインが無い場合はログイン名を入力します。
- **パスワード** — 正しいパスワードを入力します。
- **ファイルの場所** — サブディレクトリがあれば入力します。例えば、**2010yzApr** と入力します。

NFS の場合

- **共有名** — ファイルを保存する必要がある共有フォルダへのパスを入力します。例えば、**zyzxxx.xxx.xx.xyzLifCyLog** と入力します。
 - **ファイルの場所** — サブディレクトリがあれば入力します。例えば、**2010yzApr** と入力します。
- 4 **ネットワーク接続のテスト** をクリックして、USC-LCE が用意した IP アドレスに接続可能かどうかを検証します。デフォルトで、ゲートウェイおよび DNS サーバーの IP を ping します。
 - 5 **次へ** をクリックします。

ワークノートのライフサイクルログへの追加

この機能を使って、後で役立つコメントを記録します。例えば、スケジュールされたダウンタイム情報などです。


 **メモ：ライフサイクルログ** フィールドに最大 50 文字入力することができます。

コメントを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 左ペインで、**ライフサイクルログ** をクリックします。
- 2 右ペインで、**ライフサイクルログにワークノートを追加** をクリックします。
ライフサイクルログにワークノートを追加 フィールドにコメントを入力し、**OK** をクリックします。

設定の削除とデフォルトのリセット

この機能を使って、管理対象ノードの回収、管理対象ノードの別のアプリケーションでの再利用、管理対象ノードのセキュアでない場所への移動等が必要となった場合に機密データおよび設定関連情報を削除します。

 **注意**：この機能は **iDRAC** を工場出荷時のデフォルトにリセットし、すべての **iDRAC** ユーザー資格情報、**IP** アドレスの構成設定および、暗号化の証明書を削除します。また、すべての変更イベントの履歴が含まれる **ライフサイクルログ**、**ファームウェアのアップグレードとロールバック**、**ユーザーコメント** および、**現在と工場出荷時のハードウェアとファームウェアのインベントリ** 等の、**Lifecycle Controller** のすべてのコンテンツを削除します。この機能を使用する前に、**ライフサイクルログ** を安全な場所にエクスポートすることを推奨します。操作後、システムはシャットダウンするため、手動でシステムの電源を入れる必要があります。

設定を削除し、工場出荷時のデフォルトにリセットするには、次の手順を実行します。

- 1 **設定の削除とデフォルトのリセット** をクリックします。
- 2 **ライフサイクルコントローラのリセット** を選択します。
- 3 **Finish** (完了) をクリックします。
- 4 メッセージが表示されたら **はい** をクリックして続行するか、**いいえ** をクリックして操作をキャンセルします。

トラブルシューティングとよくあるお問い合わせ (FAQ)

本項は、Unified Server Configurator (USC) および Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled (USC-LCE) で共通して表示されるエラーメッセージ、およびそれらのエラーを解決するための提案を説明します。また、USC と USC - LCE のユーザーによるよくあるお問い合わせへの回答も記載しています。

エラーメッセージ

本項では、エラーメッセージのリストとメッセージごとの解決策を説明します。表 5-1 には、USC および USC-LCE 固有のメッセージがリストされています。表 5-2 には USC 固有、表 5-3 には USC-LCE 固有のメッセージをそれぞれ示します。

表 5-1 USC と USC - LCE のエラーメッセージと解決方法

エラーメッセージ	解決
オペレーティングシステムをインストールする起動デバイスが見つかりません	<p>オペレーティングシステムをインストールできるデバイスを USC または USC - LCE が検出できません。下記のいずれかがエラーの原因と考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドライブが正しく接続されていない。 • 認識できるストレージコントローラがシステムに存在しない。 • BIOS でオンボード SATA コントローラが無効になっている。 <p>この問題を解決するには、終了して再起動 をクリックし、システムをシャットダウンします。次に、USC または USC - LCE を再び起動する前に、オペレーティングシステムをインストールできるデバイスが少なくとも 1 つあることを確認してください。</p>

表 5-1 USC と USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
ドライバファイルをコピーできません	オペレーティングシステムのインストールに必要なドライバが破損しています。この問題を解決するには、プラットフォームをアップデートしてください (プラットフォームのアップデート を参照)。
挿入したオペレーティングシステムメディアは無効です	オペレーティングシステムのメディアが損傷または破損しているか、メディアを読み取るために使用している光学デバイスが正常に動作していません。
適用しようとしているアップデートはデル公認のアップデートではありません	お使いのシステムのアップデートに使用した 1 つまたは複数の DUP がデル認可のアップデートではないと USC または USC-LCE が判別しました。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用してもこの問題が解決されない場合は、『Server Update Utility』DVD から DUP を使用してリポジトリを再作成するか (ローカル USB デバイスの設定 を参照)、別のリポジトリを指定してください。
USC の起動時に致命的なエラーが発生しました。システムが再起動する。	USC または USC - LCE の起動中に致命的なエラーが発生しました。システムは自動的に再起動し、再び USC または USC - LCE の起動を試みます。再起動後もこの問題が続く場合は、 USC の修復 または USC-LCE の修復 を参照してください。
ネットワークが設定されていません。今すぐ設定しますか？	USC または USC-LCE が正しく動作するには、ネットワーク設定が設定されている必要があります。 オペレーティングシステムの展開 を参照し、 ネットワーク設定 ページから USC または USC - LCE ネットワーク設定を設定する情報をご覧ください。
新しい日時を設定できません	USC または USC - LCE がシステム日時を変更できませんでした。この問題を解決するには、次の手順を実行してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1 システムを再起動します。 2 <F10> キーを押して、USC または USC - LCE を再起動します。 3 もう一度日付と時刻の設定を変更します。
無効なプロキシサーバー	FTP サーバーにアクセスするために指定したプロキシサーバーが無効です。詳細については、 ダウンロード方法の選択 を参照してください。

表 5-1 USC と USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
最大 40 個の 16 進数で有効な暗号化キーを入力してください	40 個以下の 16 進数で有効な暗号化キーを入力します。有効な文字は、0～9、a～f、A～F の範囲内です。
この iDRAC に有効な IPv4 アドレスを入力してください	0.0.0.0～255.255.255.255 の有効な iDRAC IPv4 プロトコルアドレスを入力します。
有効なサブネットマスクを入力してください	0.0.0.0～255.255.255.255 の有効なサブネットマスクを入力します。
有効なデフォルトゲートウェイアドレスを入力してください	0.0.0.0～255.255.255.255 の設定で有効なデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
有効な IPv4 DNS サーバー 1 アドレスを入力してください	IPv4 DNS サーバー 1 の有効なアドレスを 0.0.0.0～255.255.255.255 の範囲で入力します。
有効な IPv4 DNS サーバー 2 アドレスを入力してください	IPv4 DNS サーバー 2 の有効なアドレスを 0.0.0.0～255.255.255.255 の範囲で入力します。
アカウントアクセスの変更に失敗しました。複数のユーザーアカウントが必要です。詳細については、ヘルプを参照してください。	別のユーザーアカウントを作成する必要があります。詳細については、画面の右上にある ヘルプ ボタンをクリックしてください。
有効なユーザー名を入力してください	有効なユーザー名を入力する必要があります。他の iDRAC 設定ツールとの互換性を保つため、ユーザー名の文字列には、数字 (0-9)、英字 (a-z, A-Z) およびハイフン (-) のみを使用することをお勧めします。
有効なパスワードを入力してください。	有効なパスワードを入力する必要があります。他の iDRAC 設定ツールとの互換性を保つため、パスワードの文字列には、数字 (0-9)、英字 (a-z, A-Z) およびハイフン (-) のみを使用することをお勧めします。

表 5-1 USC と USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
有効な確認パスワードを入力してください。	新しいパスワードと確認用パスワードを再入力する必要があります。両方のパスワードが一致するようにしてください。
オペレーティングシステムの展開時にパーティションのマウントに失敗しました	操作を再実行します。問題が解決しない場合、iDRAC を再起動します。
Ping テストに失敗しました	このエラーは、一時的なネットワークの問題が原因で発生する場合があります。問題が解決しない場合、ネットワーク接続をチェックした後、再実行してください。

表 5-2 USC のエラーメッセージと解決方法

エラーメッセージ	解決
オペレーティングシステムのインストールメディアを読み取れるデバイスが見つかりません	<p>オペレーティングシステムメディアを読み取るデバイスを USC が検出できません。下記のいずれかがエラーの原因と考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用可能な光学デバイスがシステムに存在しません。システムをシャットダウンし、SATA 光学デバイスまたは USB 光学デバイスを追加します。 • 光学デバイスが存在する場合は、正しく接続していない可能性があります。デバイスケーブルが正しく接続していることを確認してください。 • 光学デバイスが存在する場合は、BIOS で無効になっています。システムを再起動し、BIOS セットアップユーティリティにアクセスして、光学デバイスの SATA ポートを有効にしてください。
アップデートのソースとして選択したリポジトリが整合性チェックに失敗しました	このエラーは、ネットワークの一過性の問題によって発生した可能性があります。後で、もう一度アップデートリポジトリに接続してみてください。アップデートリポジトリにローカル FTP サーバーを使用しても、この問題が解決しない場合は、リポジトリを再び作成するか (ローカル FTP サーバーの設定 を参照)、別のリポジトリを指定してください。

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法

エラーメッセージ	解決
<p>ドライバパックが見つかりません または オペレーティングシステムリストの作成エラー</p>	<p>オペレーティングシステムのインストールに必要なドライバを USC - LCE が検出できません。この問題を解決するには、プラットフォームをアップデートしてください（プラットフォームのアップデートを参照）。</p>
<p>オペレーティングシステムのインストールメディアを読み取れるデバイスが見つかりません</p>	<p>オペレーティングシステムメディアを読み取るデバイスを USC - LCE が検出できません。下記のいずれかがエラーの原因と考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用可能な光学デバイスがシステムに存在しません。システムをシャットダウンし、SATA 光学デバイスまたは USB 光学デバイスを追加してください。 • 光学デバイスが存在する場合は、正しく接続していない可能性があります。デバイスケーブルが正しく接続していることを確認してください。 • 光学デバイスが存在する場合は、BIOS で無効になっています。システムを再起動し、BIOS セットアップユーティリティにアクセスして、光学デバイスの SATA ポートを有効にしてください。 • iDRAC 仮想メディアが無効になっています。詳細については、support.dell.com/manuals でお使いのシステムの『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。
<p>アップデートのソースとして選択したリポジトリが整合性チェックに失敗しました</p>	<p>このエラーは、ネットワークの一過性的の問題によって発生した可能性があります。後で、もう一度アップデートリポジトリに接続してみてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再作成するか（ローカル USB デバイスの設定を参照）、別のリポジトリを指定してください。</p>

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
カタログファイルの解凍に失敗しました	現在インストールされているバージョンと最新バージョンを比較するためにダウンロードしたカタログの圧縮を解除できません。このエラーは、ネットワークの一過性の問題によって発生した可能性があります。後で、もう一度アップデートリポジトリに接続してみてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が解決されない場合は、リポジトリを再び作成するか (ローカル USB デバイスの設定 を参照)、別のリポジトリを指定してください。
カタログアーカイブのファイルシークに失敗しました	現在インストールされているバージョンと最新バージョンを比較するためにダウンロードしたカタログが破損しています。このエラーは、ネットワークの一過性の問題によって発生した可能性があります。後で、もう一度アップデートリポジトリに接続してみてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再作成するか (ローカル USB デバイスの設定 を参照)、別のリポジトリを指定してください。
カタログ署名ファイルの FTP ダウンロードに失敗しました	現在インストールされているバージョンと最新バージョンを比較するためにダウンロードしたカタログが、デジタル署名の検証チェックに失敗しました。このエラーは、ネットワークの一過性の問題によって発生した可能性があります。後で、もう一度アップデートリポジトリに接続してみてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再作成するか (ローカル USB デバイスの設定 を参照)、別のリポジトリを指定してください。

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
ホスト名の名前解決ができません	<p>このエラーは、次のいずれかが原因で発生した可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プラットフォームアップデート FTP サーバーに無効な名前を指定しました。ダウンロード方法の選択 を参照してください。 • ネットワーク設定 ページで指定したドメインネームサーバー (DNS) が無効です。オペレーティングシステムの展開 を参照してください。
DUP が破損しています	<p>システムのアップデートに使用した 1 つまたは複数の DUP が破損していることが USC - LCE によって検出されました。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再作成するか (ローカル USB デバイスの設定 を参照)、別のリポジトリを指定してください。</p>
この iDRAC の有効な iDRAC IPv6 アドレスを入力してください	<p>有効な iDRAC IPv6 ネットワークアドレスを入力します。IPv6 設定 を参照してください。</p>
IPv6 ネットワークアドレスプレフィックス長を 1 ~ 128 の範囲で指定してください	<p>ネットワークの IPv6 アドレスプレフィックスの最上位ビット数を入力します。プレフィックス長は 1 ~ 128 の範囲で指定する必要があります。IPv6 設定 を参照してください。</p>
IPv6 デフォルトゲートウェイのアドレスを入力してください	<p>IPv6 デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。IPv6 設定 を参照してください。</p>
IPv6 DNS サーバー 1 の有効なアドレスを入力してください	<p>IPv6 DNS サーバー 1 の有効なアドレスを入力します。IPv6 設定 を参照してください。</p>
IPv6 DNS サーバー 2 の有効なアドレスを入力してください	<p>IPv6 DNS サーバー 2 の有効なアドレスを入力します。IPv6 設定 を参照してください。</p>
最大 63 文字の有効な iDRAC 名を最大入力してください	<p>有効な iDRAC 名を 63 文字以内で入力します。</p>

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
最大 64 文字の有効なドメイン名を入力してください	有効なドメイン名を 64 文字以内で入力します。
最大 62 文字の有効なホスト名を入力してください	有効なホスト名を 62 文字以内で入力します。
1 ~ 4094 の範囲で値を入力してください	VLAN ID を 1 ~ 4094 の範囲で入力します。 詳細 LAN 設定 を参照してください。
0 ~ 7 の範囲で値を入力してください	VLAN ID の優先度の値を 0 ~ 7 の範囲で入力します。 詳細 LAN 設定 を参照してください。
iDRAC 通信エラー。システムの電源をオフにし、電源プラグを抜いて 5 秒経ってから、再び電源プラグを差し込んで電源をオンにしてください	<p>iDRAC との通信に失敗しました。この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 システムの電源をオフにしてから電源プラグを抜きます。 2 5 秒待ちます。 3 電源プラグをシステムに差し込み、電源をオンにします。
iDRAC ハードエラー。システムの電源をオフにし、電源プラグを抜いて 5 秒経ってから、再び電源プラグを差し込んで電源をオンにしてください	<p>iDRAC との接続に失敗しました。この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 システムの電源をオフにしてから電源プラグを抜きます。 2 5 秒待ちます。 3 電源プラグをシステムに差し込み、電源をオンにします。
RAID 設定に失敗しました	<p>RAID 設定の作成時に USC - LCE に問題が発生しました。この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 システムを再起動します。 2 <F10> キーを押して USC - LCE を再起動します。 3 もう一度 RAID 設定を作成してみてください。

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
一般エラー	<p>RAID 設定の作成時に、USC - LCE に原因不明のエラーが発生しました。この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 システムを再起動します。 2 <F10> キーを押して USC - LCE を再起動します。 3 もう一度 RAID 設定を作成してみてください。
サポートされている RAID コントローラに十分な物理ディスクがありません。ウィザードが終了します。	<p>RAID 設定をサポートできるだけのディスク数がありません。物理ディスクを接続し、RAID 設定 ウィザードを再起動する必要があります。</p>
現在のスパンに必要な物理ディスクの数を選択してください	<p>現在の RAID スパンに選択した物理ディスクの数は間違っています。スパンの選択項目を確認し、正しい数を入力してください。</p>
この仮想ディスクに物理ディスクが選択されていません	<p>仮想ディスクに選択した物理ディスク数が足りません。現在の RAID レベルに必要な最小物理ディスク数を確認し、それ以上の物理ディスク数を選択してください。</p>
システムにコントローラが存在しません	<p>システムに RAID コントローラが存在しません。この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 複数の物理ディスクを含むサポートされている RAID コントローラを追加します。 2 <F10> キーを押して USC - LCE を再起動します。 3 RAID 設定 ウィザードを再起動します。
有効な RAID レベルが見つかりません	<p>システムに接続している物理ディスクの数が、選択した RAID レベルには不十分です。物理ディスクを追加し、再試行してください。</p>

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
エラーが発生しました。1 つまたは複数の設定が保存されていない可能性があります。	<p>ハードウェアの詳細設定を変更中にエラーが発生しました。この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 システムを再起動します。 2 <F10> キーを押して USC - LCE を再起動します。 3 もう一度設定を変更します。
エラーが発生しました。1 つまたは複数の設定が復元されない可能性があります。	<p>ハードウェアの詳細設定を復元中にエラーが発生しました。この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 システムを再起動します。 2 <F10> キーを押して USC - LCE を再起動します。 <p>詳細設定画面を再び開きます。</p>
この機能は、この設定でサポートされていません	ご利用のモジュラーシステムは、選択した機能をサポートしていません。
NFS サポートが存在しません	正しい NFS 共有名を入力して再試行します。
共有名 / 詳細が存在しません	正しい共有名またはユーザー名とパスワードを入力して、再試行します。
認証に失敗しました。共有名、ユーザー名、パスワードのいずれかが無効です。	正しい共有名またはユーザー名とパスワードを入力して、再試行します。
カタログファイルが無効です	カタログファイルへの正しいパス、または正しいカタログ名を入力します。
共有に接続できませんでした	このエラーは、一時的なネットワークの問題が原因で発生する場合があります。問題が解決しない場合、ネットワーク接続をチェックした後、再試行してください。
ネットワーク共有のマウントに失敗しました	このエラーは、一時的なネットワークの問題が原因で発生する場合があります。問題が解決しない場合、ネットワーク接続をチェックした後、再試行してください。

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
要求された操作が正常に完了しました。システムのシャットダウン中にエラーが発生しました。手動でシャットダウンしてください。	システムの電源ボタンを押して、手動でシャットダウンしてください。
要求されたハードウェアがシステム内に存在しない場合、次のリンクのうち 1 つまたは複数のリンクが無効になります。	正常かつライセンス済みの vFlash SD カードがシステム内に存在することを確認してください。
ネットワーク共有へのコピーに失敗しました	このエラーは、一時的なネットワークの問題が原因で発生する場合があります。問題が解決しない場合、ネットワーク接続をチェックした後、再試行してください。
メッセージのログに失敗しました	メッセージに <、>、&、および % といった文字が使用されていないことを確認してください。問題が解決しない場合、iDRAC を再起動します。
Dell Update Package ファイルを開けませんでした	正しい DUP、名前、およびパスを使用してください。
USB フォルダの場所が無効です	有効なフォルダ場所を指定してください。
ネットワーク共有フォルダの場所が無効です	有効なフォルダ場所を指定してください。
USB およびネットワーク共有フォルダの場所が無効です	有効なフォルダ場所を指定してください。
USB デバイスへのコピーに失敗しました。指定されたフォルダが存在しません	フォルダが存在することを確認するか、フォルダを作成して再試行してください。

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
ネットワーク共有へのコピーに失敗しました。指定されたフォルダが存在しません	フォルダが存在することを確認するか、フォルダを作成して再試行してください。
アップデートパッケージがこのシステムでサポートされていません	DUP がシステムでサポートされていることを確認してください。
無効なアップデートパッケージです	DUP が破損または改ざんされていないことを確認してください。
USC から開始されたバックアップ操作が完了しましたが、エラーがあります。詳細については、RAC ログを参照してください。	RAC ログに、バックアップ中にエラーが発生したコンポーネントの名前が含まれています。ファームウェア情報を確認して、再試行してください。
バックアップの開始に失敗しました。数分後に再試行してください。	AC 電源を入れ直してから再試行してください。
vFlash SD カード上の SRVCNF パーティションへのバックアップファイルのコピーに失敗しました。	vFlash SD が取り付けられ、初期化および有効化されていることを確認してください。
USC から開始された復元操作が完了しましたが、エラーがあります。詳細については、RAC ログを参照してください。	RAC ログに、復元中にエラーが発生したコンポーネントの名前が含まれています。ファームウェア情報を確認して、再試行してください。
復元の開始に失敗しました。しばらくしてから復元操作を再試行してください。	AC 電源を入れ直してから再試行してください。

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
エラーが発生しました。vFlash SD カード上のイメージを検証できませんでした。	有効なバックアップイメージを使用して再試行してください。
この操作を完了することはできません。ライセンス取得済みの SD カードがシステム内に存在しません。	ライセンス取得済みの vFlash SD カードを取り付けてから、操作を再試行してください。
この操作を実行するには vFlash 上の空き容量が不足しています。少なくとも 384 MB の空き容量が必要です。	384 MB の空き容量のため、既存のパーティションと不要なファイルを削除してください。
SD カードが存在しないためこの操作を完了できません。SD カードを挿入して再試行してください。	ライセンス取得済みの vFlash SD カードを取り付けてから、操作を再試行してください。
1 つまたは複数のパーティションがロックされているため、この操作を完了できません。パーティションのロックを解除してから再試行してください。	iDRAC vFlash SD カードのウィザードを使用して、パーティションのロックを解除し、操作を再試行してください。
1 つまたは複数のパーティションが使用されているため、この操作を完了できません。数分間待ってから再試行します。	パーティションを使用している他の操作を完了してから、操作を再試行してください。
SD カードが存在しないためこの操作を完了できません。SD カードを挿入して再試行してください。	ライセンス取得済みの vFlash SD カードを取り付け、有効化してから、操作を再試行してください。

表 5-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決方法 (続き)

エラーメッセージ	解決
USC から開始されたバックアップ操作を完了できません。詳細については、iDRAC RAC ログをチェックしてください。	RAC ログに、バックアップ中にエラーが発生したコンポーネントの名前が含まれています。ファームウェア情報を確認して、再試行してください。
キーの再生成に失敗しました。再試行してください。	ストレージコントローラの最新のファームウェアがインストールされていることを確認してください。
セキュアでない仮想ディスクの暗号化に失敗しました。	ストレージコントローラの最新のファームウェアがインストールされていることを確認してください。

USC および USC-LCE の修復

USC の修復


電源投入時の自己テスト (POST) 中にシステムサービスのアップデートが必要です というメッセージが表示された場合、USC を保存している内蔵デバイスに破損したデータが含まれている場合があります。この問題を解決するには、オペレーティングシステムで USC Dell Update Package (DUP) を実行して USC をアップデートしてください。詳細については、support.dell.com/manuals で『Dell Update Package ユーザーズガイド』を参照してください。

USC-LCE の修復

電源投入時の自己テスト (POST) 中にシステムサービスのアップデートが必要です というメッセージが表示された場合、USC-LCE を保存している内蔵デバイス内に破損したデータが含まれている場合があります。この問題を解決するには、USC - LCE Dell Update Package (DUP) を実行することにより、まず USC - LCE をアップデートする必要があります。詳細については、support.dell.com/manuals で『Dell Update Package ユーザーズガイド』を参照してください。DUP を実行しても問題が解決されない場合は、USC - LCE 修復パッケージを使用します。

- 1 **ftp.dell.com**→**LifecycleController** に移動し、**USC 1.3.0 Rep A00.usc** (またはこれ以降のバージョン) という名前のファイルを一時的な場所へダウンロードします。
- 2 iDRAC ウェブインタフェースを使用して、システムの iDRAC に接続します。iDRAC の詳細については、『**Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド**』を参照してください。
- 3 iDRAC ウェブインタフェースで **リモートアクセス** をクリックします。
- 4 **アップデート** タブを選択して、**ftp.dell.com** からダウンロードした **USC - LCE 修復パッケージ**を参照します。
- 5 **次へ** をクリックして **OK** をクリックし、アップロードを確認します。プロセスが完了するまで待ってから**手順 6**に進みます。
- 6 システムを再起動して **<F10>** キーを押し、USC インタフェースを起動します。
- 7 推奨されるすべてのアップデートをインストールします。詳細については、**プラットフォームのアップデート** を参照してください。アップデートが完了したら、システムは自動的に再起動します。
- 8 システムの再起動中にもう一度 **<F10>** キーを押すと、USC - LCE メニューが開きます。

最初の USC - LCE 画面に警告メッセージが表示された場合は、サーバーが完全に回復するまで **手順 7** を繰り返す必要があります。

 **メモ**：完全なシステムリカバリに必要なアップデートは、USC-LCE によって事前に選択されています。システムで選択されたすべてのアップデートを実行することを強く推奨します。

よくあるお問い合わせ (FAQ)

- 1 **USC - LCE がアップデートをダウンロードするとき、ファイルはどこに保存されますか。**

ファイルは、メインシステム基板上の不揮発性メモリに保存されます。このメモリはリムーバブルではなく、オペレーティングシステムからアクセスできません。

- 2 **アップデート用のデータを保存するのに、仮想メディアデバイスまたは vFlash カードは必要ですか。**

いいえ ファイルは、メインシステム基板上のメモリに保存されます。

- 3 **仮想メディアとは何ですか。**

仮想メディアとは、サーバーがローカルメディアとして識別する CD、DVD、USB キーなどのリモートメディアです。

- 4 **アップデートに失敗した場合は、どうすればよいでしょうか。**

アップデートに失敗すると、USC-LCE は再起動してから、選択した未実行のアップデートをすべて実行しようとします。最後に再起動した後、システムは USC-LCE ホーム ページに戻ります。**プラットフォームアップデート** を再開し、失敗したアップデートを再度選択し、**適用** をクリックしてください。

- 5 **vFlash SD カードとは何ですか。**

vFlash SD カードは、iDRAC6 Enterprise に接続するフォーマット済みの SD (Secure Digital) カードです。vFlash は、データストレージ用の USB ドライブとしてアクセスできるように、iDRAC でフォーマットして有効にできます。仮想フラッシュは、リモートから ISO を書き込みできる vFlash SD カード上のパーティションです。詳細については、**support.dell.com/manuals** の『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

- 6 **オペレーティングシステムのインストールに使用する独自のドライバを追加できますか。**

いいえ オペレーティングシステムのインストールに独自のドライバを追加することはできません。オペレーティングシステムのインストールに使用されるドライバのアップデート方法の詳細については、**プラットフォームのアップデート**を参照してください。

- 7 インストールされているオペレーティングシステムで使用されるドライバを USC または USC - LCE を介してアップデートできますか。

いいえ USC または USC - LCE はオペレーティングシステムのインストールに必要なドライバのみを提供します。インストールされているオペレーティングシステムで使用されるドライバのアップデートについては、オペレーティングシステムのヘルプマニュアルを参照してください。

- 8 USC または USC - LCE のアップデートに使用する独自のドライバやファームウェアをローカル USB デバイスに追加できますか。

いいえ 『Dell Server Updates』 DVD からダウンロードしたドライバおよびファームウェアのみがサポートされています。詳細については、[ローカル USB デバイスの設定](#) を参照してください。

- 9 USC または USC - LCE を削除できますか。

いいえ

- 10 インストール中に、オペレーティングシステムのメディアソースとして仮想メディアを使用できますか。

はい。お使いのシステムの iDRAC デバイスの詳細に関しては、support.dell.com/manuals で『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

- 11 アップデートリポジトリとして、仮想 USB を使用できますか。

はい。お使いのシステムの iDRAC デバイスの詳細に関しては、support.dell.com/manuals で『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

- 12 UEFI とは何ですか。USC または USC - LCE は、どの UEFI バージョンに準拠していますか。

UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) とは、プレブート環境からオペレーティングシステムへの移行制御を行うインタフェースを定めた規格です。USC または USC - LCE は UEFI バージョン 2.1 に準拠しています。詳細については、www.uefi.org を参照してください。

13 ハードウェア構成内で、設定ウィザードと詳細設定の違いは何ですか。

USUSC - LCE でハードウェアを設定する場合、設定ウィザード と 詳細設定 の 2 通りの方法を使用できます。

設定ウィザードは、システムデバイスの設定方法を順を追って説明します。設定ウィザードには、iDRAC、RAID、システム日時、および物理セキュリティが含まれます。詳細については、[ハードウェア構成](#) を参照してください。

詳細設定では、HII (Human Interface Infrastructure) が有効なデバイス (たとえば、NIC および BIOS) を設定できます。詳細については、[HII 詳細設定](#) を参照してください。

14 USC や USC - LCE は、yx1x システム用のすべての RAID レベルとすべての RAID カードをサポートしていますか。

USC または USC - LCE は、PERC 6.1 ファームウェアを実行する PERC 6 カードで RAID レベル 0、1、5、6、10、50、60 をサポートしています。RAID の 0 と 1 は、SAS 6/iR でサポートされています。

以下がシリーズ 7 RAID コントローラの最新世代です。

PERC - H700 (内蔵) および H800 (外付け)

SAS - H200 (内蔵) および SAS 6 GBPS (外付け)

15 USC - LCE は、BIOS とファームウェアのロールバックをサポートしていますか。

はい。詳細については、[プラットフォームのロールバック](#) を参照してください。

16 どのデバイスがシステムアップデートをサポートしていますか。

USC - LCE は現在、BIOS、iDRAC ファームウェア、電源装置ファームウェア、および特定の RAID と NIC コントローラのファームウェアアップデートをサポートしています。詳細については、[プラットフォームのアップデート](#) を参照してください。

17 **ハードウェア構成内の詳細設定で、どのデバイスがサポートされていますか。**

詳細設定は BIOS と NIC で使用できます。システムの構成によっては、HII 設定仕様をサポートしているその他のデバイスも詳細設定に表示される場合があります。詳細については、[ハードウェア構成](#) を参照してください。

18 **USC または USC - LCE の使用中にシステムがクラッシュした場合はどうすればよいですか。**

USC または USC - LCE の使用中にシステムがクラッシュすると、黒い画面に赤いテキストが表示されます。この問題を解決するには、まずシステムを再起動して、USC または USC - LCE をもう一度開始してください。それでも問題が解決しない場合は、[USC-LCE の修復](#) の [USC の修復](#) に記載されている手順を実行してください。それでも問題が解決しない場合は、デルにテクニカルサポートをお求めください。

19 **USC-LCE 製品の現在インストールされているバージョンの詳細は、どこで見つけることができますか。**

左のナビゲーション枠の [バージョン情報](#) をクリックしてください。

20 **iDRAC 仮想コンソールを介して USC LCE にアクセスするときに、マウスの同期に問題がある場合は、どうすればよいでしょうか。**

iDRAC6 仮想コンソールクライアント上の iDRAC 仮想コンソールメニューのツールで **単一カーソル** オプションが選択されていることを確認します。詳細については、Dell サポートサイト support.dell.com/manuals の『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

21 **USC-LCE 1.4 の機能拡張のために Linux ベースの DUP ではなく Microsoft Windows ベースの DUP を使わなければならないのは、なぜですか。**

USC-LCE バージョン 1.4 以降では、Microsoft Windows ベースのアップデートのみが利用可能です。ローカルリポジトリを使用して USC-LCE バージョン 1.3 からバージョン 1.4 にアップグレードする場合、Linux ベースの DUP でカタログを作成するようにしてください。

22 CSIOR を有効にしておかなければいけないのは、なぜですか。

Collect System Inventory On Restart (CSIOR) は、システム起動時に USC-LCE が部品ファームウェアのアップデートおよびハードウェア設定を自動で開始するよう、有効にしておく必要があります。

23 USC または USC-LCE でアクセスできない機能があるのはなぜですか。

ライフサイクルログ、ハードウェアインベントリ（表示およびエクスポート）、部品交換、および vFlash SD カード設定といった機能は、最新の iDRAC ファームウェアに依存した機能です。最新版の iDRAC ファームウェアがインストールされていることを確認してください。

Lifecycle ログスキーマ

本項では、典型的な Lifecycle ログスキーマを記載します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<xs:schema xmlns:xs=
"http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:dm=
"http://www.w3.org/2001/XMLSchema" targetNamespace=
"http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
elementFormDefault="qualified" attributeFormDefault=
"unqualified">

  <xs:element name="Description" type="xs:string"/>
  <xs:element name="MessageID" type="xs:string"/>
  <xs:element name="Arg" type="xs:string"/>
  <xs:element name="MessageArguments">
    <xs:complexType>
      <xs:sequence minOccurs="0">
        <xs:element ref="dm:Arg" minOccurs=
"0"/>
      </xs:sequence>
    </xs:complexType>
  </xs:element>
  <xs:element name="Event">
    <xs:complexType>
      <xs:sequence minOccurs="0">
        <xs:element ref="dm:Description"
minOccurs="0"/>
        <xs:element ref="dm:MessageID"
minOccurs="0"/>
      </xs:sequence>
    </xs:complexType>
  </xs:element>
</xs:schema>
```

```

        <xs:element ref="dm:MessageArguments"
minOccurs="0"/>
    </xs:sequence>
        <xs:attribute name="TimeStamp" type=
"xs:string" use="required"/>
        <xs:attribute name="AgentID" type=
"xs:integer" use="required"/>
        <xs:attribute name="Severity" type=
"xs:integer" use="required"/>
        <xs:attribute name="s" type=
"xs:string" use="required"/>
    </xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="Events">
    <xs:complexType>
        <xs:sequence minOccurs="0">
            <xs:element ref="dm:Event" minOccurs=
"0" maxOccurs="unbounded"/>
        </xs:sequence>
        <xs:attribute name="lang" type=
"xs:string" use="optional"/>
        <xs:attribute name="schemaVersion"
type="xs:string" use="optional"/>
        <xs:attribute name="timeStamp" type=
"xs:dateTime" use="optional"/>
    </xs:complexType>
</xs:element>
</xs:schema>

```


B

使いやすいシステムコンポーネント名

表 B-1 に、システムコンポーネントの Fully Qualified Device Descriptor (FQDD) と、意味の同じ使いやすい名前を示します。

表 B-1 システムコンポーネントの使いやすい名前

システムコンポーネント名の FQDD	使いやすい名前
RAID.Integrated.1	内蔵 RAID コントローラ 1
RAID.Slot.1-1	スロット 1 の RAID コントローラ
NIC.Mezzanine.1B-1	Mezzanine の NIC
NIC.Mezzanine.1C-1	
NIC.Mezzanine.1C-2	
NIC.Mezzanine.3C-2	
NonRAID.Integrated.1-1	内蔵ストレージコントローラ 1
NonRAID.Slot.1-1	スロット 1 のストレージコントローラ
NonRAID.Mezzanine.2C-1	メザニン 1 のストレージコントローラ (ファブリック C)
NIC.Embedded.1	内蔵 NIC 1
NIC.Embedded.2	内蔵 NIC 2
NIC.Embedded.1-1	内蔵 NIC 1 ポート 1
NIC.Embedded.1-1-1	内蔵 NIC 1 ポート 1 パーティション 1
NIC.Slot.1-1	スロット 1 ポート 1 の NIC
NIC.Slot.1-2	スロット 1 ポート 2 の NIC
Video.Embedded.1-1	Embedded Video Controller
HostBridge.Embedded.1-1	内蔵 ホストブリッジ 1

表 B-1 システムコンポーネントの使いやすい名前 (続き)

システムコンポーネント 名の FQDD	使いやすい名前
ISABridge.Embedded.1-1	内蔵 ISA ブリッジ 2
P2PBridge.Embedded.1-1	内蔵 P2P ブリッジ 3
P2PBridge.Mezzanine.2B-1	メザニン 1 内蔵のホストブリッジ (ファブリック B)
USBUHCI.Embedded.1-1	内蔵 USB UHCI 1
USBOHCI.Embedded.1-1	内蔵 USB OHCI 1
USBEHCI.Embedded.1-1	内蔵 USB EHCI 1
Disk.SATAEmbedded.A-1	内蔵 SATA ポート A のディスク
Optical.SATAEmbedded.B-1	内蔵 SATA ポート B の光学ドライブ
TBU.SATAExternal.C-1	外付け SATA ポート C のテープバックアップ
Disk.USBFront.1-1	前面 USB 1 に接続されたディスク
Floppy.USBBack.2-1	背面 USB 2 に接続されたフロッピードライブ
Optical.USBFront.1-1	前面 USB 1 に接続された光学ドライブ
Disk.USBInternal.1	内蔵 USB 1 に接続されたディスク
Optical.iDRACVirtual.1-1	仮想接続された光学ドライブ
Floppy.iDRACVirtual.1-1	仮想接続されたフロッピードライブ
Disk.iDRACVirtual.1-1	仮想接続されたディスク
Floppy.vFlash.<string>	vFlash SD カードパーティション 2
Disk.vFlash.<string>	vFlash SD カードパーティション 3
iDRAC.Embedded.1-1	iDRAC

表 B-1 システムコンポーネントの使いやすい名前 (続き)

システムコンポーネント 名の FQDD	使いやすい名前
System.Embedded.1-1	システム
HardDisk.List.1-1	ハードディスクドライブ C:
Hard Drive C:	システム BIOS
BIOS.Setup.1-1	システム BIOS セットアップ
PSU.Slot.1	電源装置 1
Fan.Embedded.1	ファン 1
System.Chassis.1	ブレードシャーシ
LCD.Chassis.1	LCD
Fan.Slot.1	ファン 1
Fan.Slot.2	ファン 2
...	...
Fan.Slot.9	ファン 9
MC.Chassis.1	シャーシ管理コントローラ 1
MC.Chassis.2	シャーシ管理コントローラ 2
KVM.Chassis.1	KVM
IOM.Slot.1	IO モジュール 1
...	...
IOM.Slot.6	IO モジュール 6
PSU.Slot.1	電源装置 1
...	...
PSU.Slot.6	電源装置 6
CPU.Socket.1	CPU 1
System.Modular.2	ブレード 2
DIMM.Socket.A1	DIMM A1

索引

B

BIOS

- HII での設定, 86
- ロールバック, 28, 47

BitLocker, 49

D

DUP, 20, 120

F

FAQ, 122

FTP

- アップデート用のローカルサーバーの設定, 92, 94

H

HII, 86

I

iDRAC

- Enterprise, 70, 122
- 設定, 61

L

LAN

- 詳細設定, 64

Linux

- RHEL 4.8 ドライバ, 57

R

RAID

- ソフトウェア RAID, 82
- ハードウェア RAID, 74
- 設定, 74
- 設定ウィザード, 54

T

TPM, 49

U

UEFI, 86, 123

USC

- アップデート, 21
- アップデートファイルの保存, 122
- 削除, 123
- 修復パッケージ, 120
- 無効, 21

V

vFlash, 122

vFlash SD カード設定, 84

W

Windows

- C ドライブへのインストール, 59
- ドライバ, 32

Z

エラーメッセージ, 107

オペレーティングシステム

- その他のオペレーティングシステム, 56
- インストール用仮想メディアの使用, 123
- ウィザードの起動, 51
- カスタムオペレーティングシステム, 55
- カスタムドライバの追加, 122
- 展開, 31, 52

サーバープロファイルインポート

- バージョン情報, 35
- マザーボード交換, 102
- 方法, 100

サーバープロファイルエクスポート

- バージョン情報, 35
- 方法, 98

サーバープロファイルバックアップ

- バージョン情報, 34
- 方法, 97

システムクラッシュ, 125

システムサービス

- 起動要求のキャンセル, 21
- 必要なアップデート, 20
- 無効, 20
- 利用不可, 21

システム日時, 61

トラブルシューティング, 107

ネットワーク

- ハードウェアインベントリ, 40
- プラットフォームのアップデート, 45
- ライフサイクルログ, 105

ハードウェア

- 詳細設定, 86
- 設定, 28
- 設定ウィザード, 28

ハードウェア診断

- ユーティリティのアップデート, 50

ファームウェア

- インストールの中断, 46
- カスタム追加, 123
- ロールバック, 28, 47

ライフサイクルログ

- コメントの追加, 106
- ライフサイクルログのエクスポート, 104
- 履歴の表示, 103

- ローカルキーの暗号化
 - rekey, 89
 - ローカルキーの削除, 90
- ローカルキー暗号化
 - セキュアでないディスクの暗号化, 88
 - バージョン情報, 38
 - ローカルキーの適用, 88
- 仮想ディスク
 - 起動デバイスとしての設定, 54
- 仮想メディア
 - オペレーティングシステムのインストールに使用, 123
- 部品交換設定, 95

